



ハイドロセラ・ウォール
HYDROCERA WALL

クイック

クオリティ



設計・施工マニュアル

下地の種類によっては施工前に下地への補強が必要となります。
事前に本マニュアルを必ずご確認ください。

ハイドロセラ施工 YouTube 

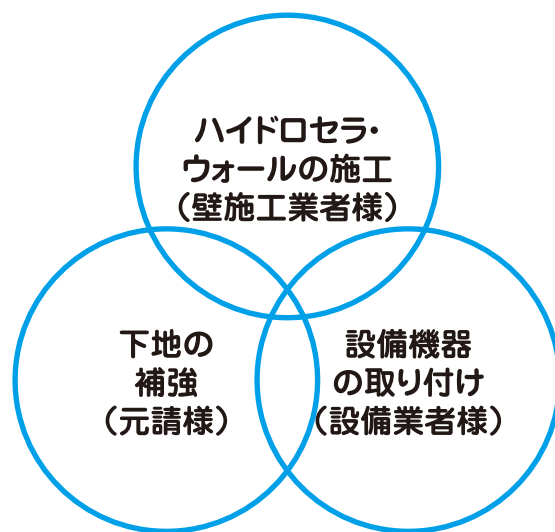
※TOTOホームページでもご覧になれます。

TOTO

はじめに

ハイドロセラ・ウォールは陶磁器質タイル同等の割れ物です。
ハイドロセラ・ウォールに設備機器を取り付ける場合は、事前に各設備機器に応じた下地の補強と取付方法の確認が必要です。
このマニュアルを十分にご確認いただき、適切な施工をお願いします。

また、ハイドロセラ・ウォールは大型の建材のため、建築段階から搬入経路の確認と確保が必要です。



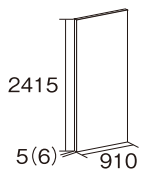
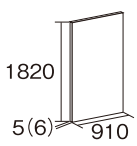
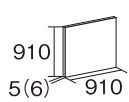
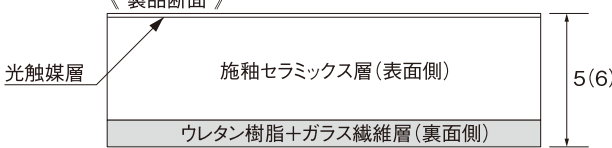
この3つが重要!

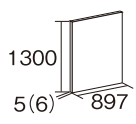
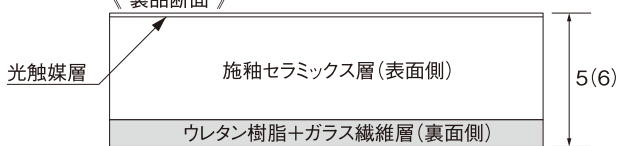
目次

■商品概要	P.2
■設計・施工時の留意点	P.3~8
安全に関するご注意	P.3
推奨下地	P.4
設備機器が取り付く下地の補強方法	P.5~8
■施工手順	P.9~19
施工の流れ	P.9
事前準備	P.10
運搬・搬入	P.11
割付け・墨出し	P.12
切断	P.13~15
加工	P.16
接着	P.17~19
■設備機器の取り付け	P.20~28
施工後の破損を防ぐために	P.20
縁切り位置の詳細図	P.21
各設備機器の取り付け方	P.22~28
■納まり例	P.29~34

商品概要

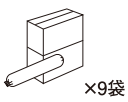
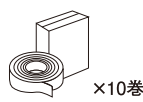
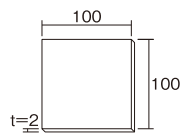
大型セラミックパネル ハイドロセラ・ウォール




形状	3×8サイズ	3×6サイズ	3×3サイズ
	 <p>2415 5(6) 910</p>	 <p>1820 5(6) 910</p>	 <p>910 5(6) 910</p>
<p>《製品断面》</p> 			
品番	AA240#~	AA180#~	AA090#~
実寸法(mm)	910×2415	910×1820	910×910
目地共寸法(mm)	913×2418	913×1823	913×913
厚さ(mm)	フラット面:5、特殊面:6	フラット面:5、特殊面:6	フラット面:5、特殊面:6
必要数	0.46枚/m ²	0.60枚/m ²	1.21枚/m ²
重量	フラット面:20kg/枚、特殊面:22.5kg/枚	フラット面:15kg/枚、特殊面:17kg/枚	フラット面:8kg/枚、特殊面:9kg/枚

形状	在来施工小便器ライニング前板用	《製品断面》
	 <p>1300 5(6) 897</p>	
品番	AGH100#~	
実寸法(mm)	897×1300	
推奨目地幅(mm)	3	
厚さ(mm)	フラット面:5、特殊面:6	
入数	1	
重量(kg/ケース)	フラット面:14kg、特殊面:15kg	

※シリーズ、形状によっては受注生産となります。

施工関連部材


形状	専用接着剤 (低ホルム対策品:F☆☆☆☆)	専用両面テープ	手すり取付プレート
	 <p>×9袋</p>	 <p>×10巻</p>	 <p>形状(mm) 100 100 t=2</p>
品番	AY30N	AY50R1	AD312
サイズ容量	2kg/袋	10m/巻(25mm幅)	透明
入数	9袋/ケース	10巻/ケース	サイズ容量(mm) 100×100×2
重量	18kg/ケース	1.5kg/ケース	入数 1枚
備考	主成分:変成シリコン 使用量目安:1袋/m ² ※ケース単位での発注となります。	主成分:発泡ポリマー支持体+アクリル系粘着層 使用量目安:0.25巻/m ² ※ケース単位での発注となります。	重量 0.03kg/枚


形状	専用施工キット (低ホルム対策品:F☆☆☆☆)		
	 <p>×3 ×1 5mmクシ目コテ1枚付属</p>	 <p>×4 ×1 5mmクシ目コテ1枚付属</p>	 <p>×5 ×2 5mmクシ目コテ1枚付属</p>
品番	AY100RR	AY102	AY103
サイズ容量	接着剤:2kg/両面テープ:10m(25mm幅)	接着剤:2kg/両面テープ:10m(25mm幅)	接着剤:2kg/両面テープ:10m(25mm幅)
入数	接着剤:3袋/両面テープ:1巻	接着剤:4袋/両面テープ:1巻	接着剤:5袋/両面テープ:2巻
重量	6.2kg/ケース	8.5kg/ケース	10.5kg/ケース
備考	使用量目安:3×6サイズ2枚分/ケース ※ケース単位での発注となります。	使用量目安:3×6サイズ2.5枚分/ケース ※ケース単位での発注となります。	使用量目安:3×6サイズ3枚分/ケース ※ケース単位での発注となります。

設計・施工時の留意点

安全に関するご注意 (安全のために必ずお守りください)



施工の前に、この「安全に関するご注意」をよくお読みのうえ、正しくお取り付けください。
この説明書では、商品を安全に正しくお取り付けいただき、お客様やほかの人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。



表示	意味
 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。








表示	意味
 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。








※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大被害を示します。

お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

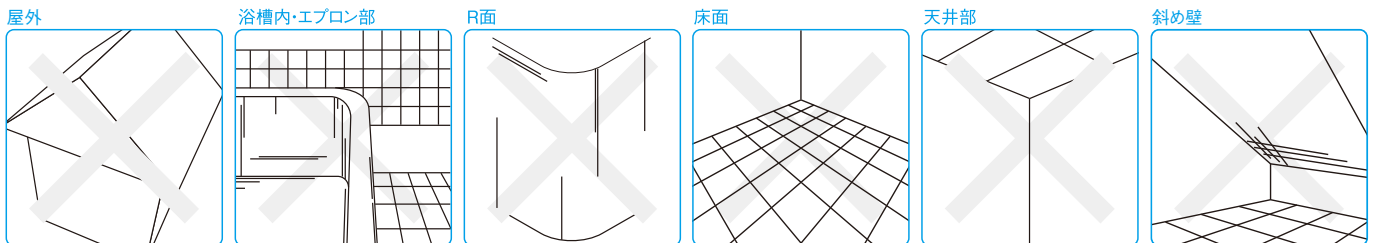
	 は、してはいけない「禁止」内容です。左図は、「禁止」を示します。
---	--

	 は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。
---	---

警告	
	屋外、天井部や斜め壁には施工しない 剥落し人災となるおそれがあります。
	5℃以下の環境では施工しない 硬化不良による接着力不足により剥落し人災となるおそれがあります。
	下地の不陸・段差は2mm/m以下にする 接着面積低下により剥落し人災となるおそれがあります。
	専用両面テープ・使用期限内の専用接着剤を使用する 接着力不足により剥落し人災となるおそれがあります。
	接着剤塗布時は、5mmクシ目コテを使用し、60度に傾けてクシ目を立てて塗布する 接着剤塗布厚が不均一になり剥落し人災となるおそれがあります。
	接着剤塗布後、夏期30分、冬期60分以内に張り付けを完了する 接着力不足により剥落し人災となるおそれがあります。
	下地と両面テープが付くまでしっかりと圧着する 接着力不足により剥落し人災となるおそれがあります。

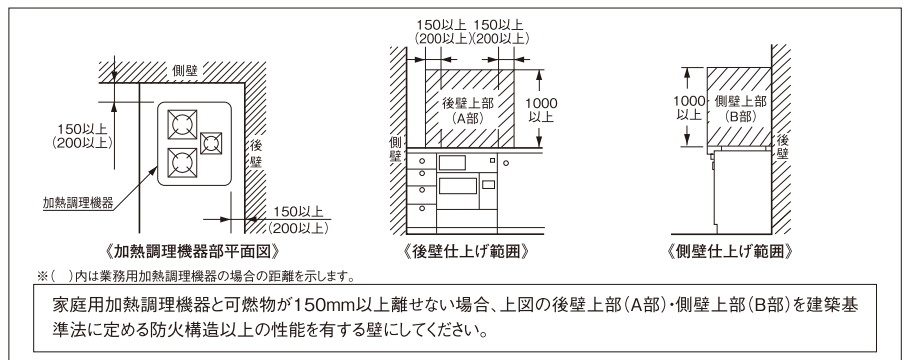
注意	
	浴槽内・エプロン部には施工しない 接着力低下により剥がれけがをするおそれがあります。
	R面・床面には施工しない 割れてけがをするおそれがあります。
	目地部から100mm以下の場所へ設備は取り付けない 割れてけがをするおそれがあります。
	3~5mmの目地を設ける 突きつけ施工を行うと、欠けや割れてけがをするおそれがあります。
	設備を取り付ける場合は事前に各設備に応じた下地補強を行う 割れや設備のがたつき・外れによりけがをするおそれがあります。
	運搬・作業時は、切削防止や滑り止め手袋を着用する けがをするおそれがあります。
	加工時は、保護マスクや保護メガネを着用し、集じん機を使用し換気をよくする 目のけがや健康を害するおそれがあります。

施工できない場所



防火構造を必要とする場合

- ハイドロセラ・ウォールは不燃材料です。防耐火構造ではありません。それらの条件を必要とする場合は下地で処理してください。



設計・施工時の留意点

推奨下地

推奨下地

合板(12mm以上)JAS規格品
せっこうボード(12mm以上)JIS規格品
けい酸カルシウム板(12mm以上)JIS規格品
フレキシブル板(6mm以上)JIS規格品

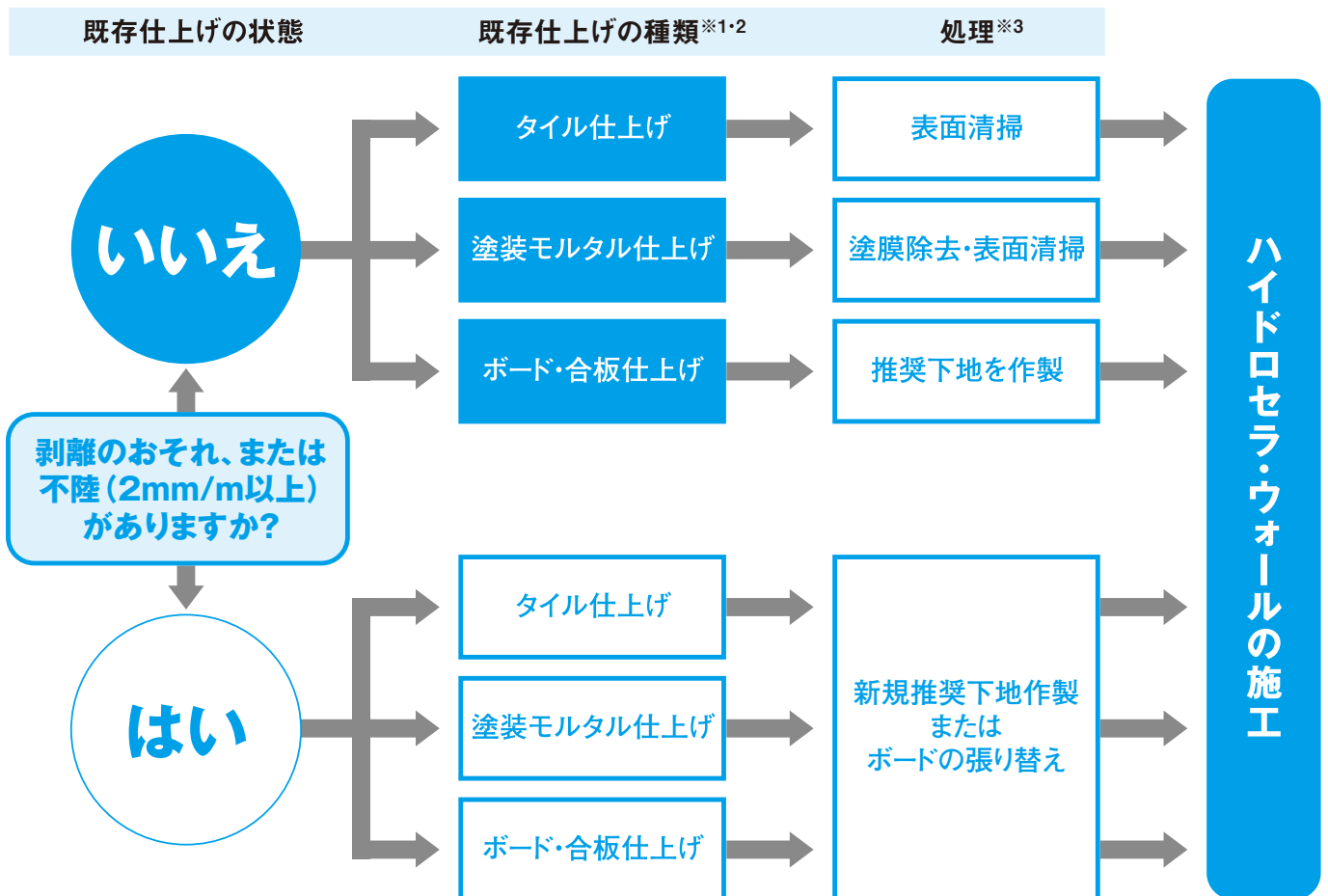
ALC(モルタル金コテ仕上げ)
コンクリート(モルタル金コテ仕上げ)
ラス下地(モルタル金コテ仕上げ)

重要!
設備機器が取り付け場合は、
所定の下地補強が必要です。
詳しくは、P.5以降をご確認ください。

※P.5~8の参考図は特定の商品での下地補強方法です。実際には、施工する商品の施工説明書から固定位置を算出し、下地補強位置を検討してください。

- ※上記以外の下地には施工できません。
- ※内装壁以外の部位には使用できません。
- ※全ての部位において、不陸は2mm/m以下にしてください。
- ※下地がケイカル板の場合には、プライマー処理を施してください。(推奨:セメダイン MP1000)
- ※ハイフレックスは吸水調整材です。プライマーとしては使用できません。
- ※湿気を帯びた下地には施工できません。

リモデルの場合

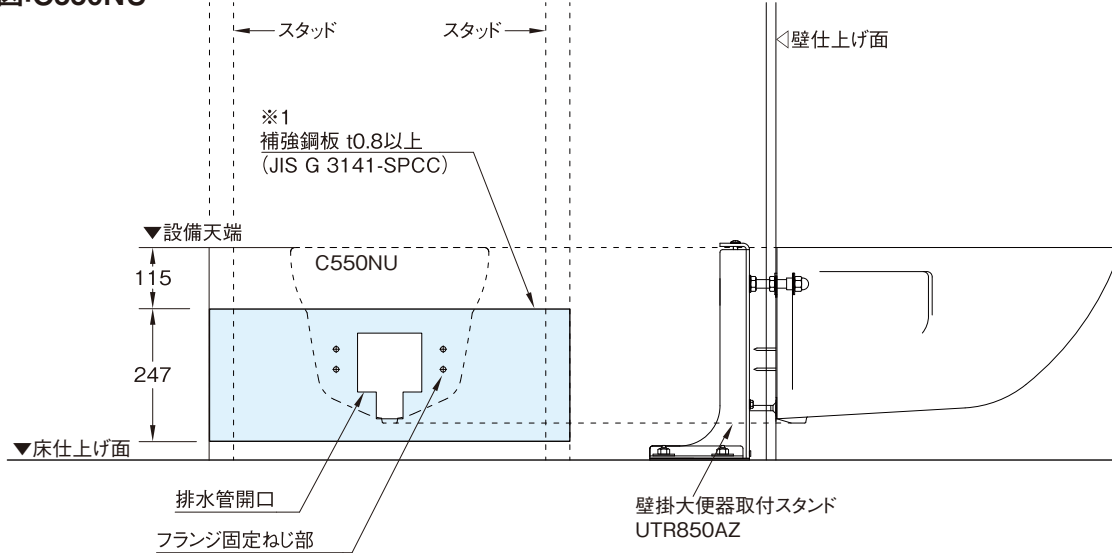


- ※1 下地が推奨下地以外の場合は、下地を作り直してください。
- ※2 既存仕上げが壁紙の場合は、接着剤残りや紙残りのないように除去するか、下地を作り直してください。
- ※3 設備機器が取り付け場合、設備機器の種類、下地によっては補強が必要となります。

壁掛大便器が取り付けく場合

参考図:C550NU

※1:ねじの抜け防止用。



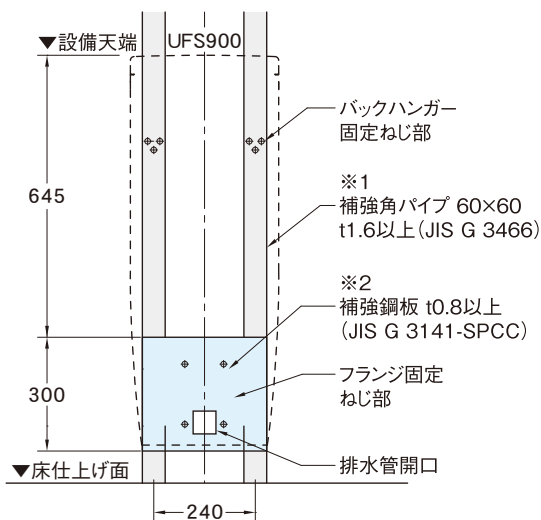
- 専用の壁掛大便器取付スタンドを必ずご使用ください。
- 排水フランジ固定ねじ部分の下地裏面に鋼板(t=0.8mm以上)を入れてください。

※12mm以上の構造用合板(JAS規格品)を下地全面に使用する場合、鋼板は不要です。

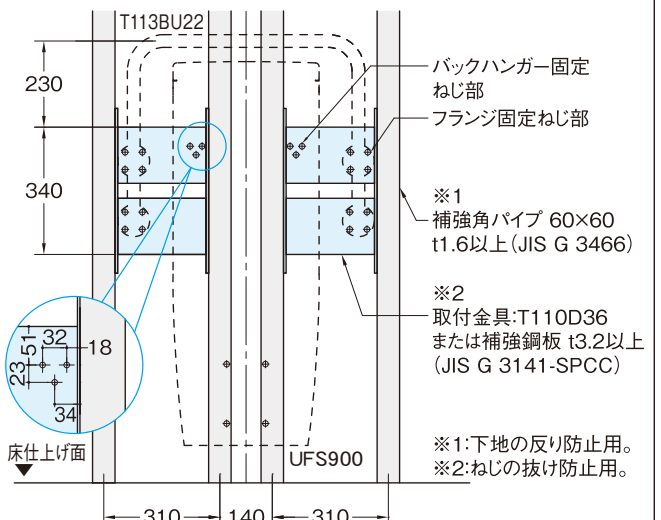
壁掛小便器が取り付けく場合

参考図:UFS900

※1:下地の反り防止用。
※2:ねじの抜け防止用。



参考図:UFS900(小便器)、T113BU22(手すり)



- 排水フランジ固定ねじ部分の下地裏面に鋼板(t=0.8mm以上)を入れてください。
- バックハンガー固定ねじ部分の下地裏面に角パイプ(60mm角、t=1.6mm以上)を入れてください。
→手すりと一緒に設置する場合は、手すり用取付金具に固定してください。(右図)

※12mm以上の構造用合板(JAS規格品)を下地全面に使用する場合、補強木での対応が可能です。設計施工資料集の「衛生陶器を設置する際の壁補強・壁仕上げについて(乾式工法)補強材が合板補強の場合」を参照ください。ただし、手すりが一緒に取り付けく場合は、上記の補強が必要です。

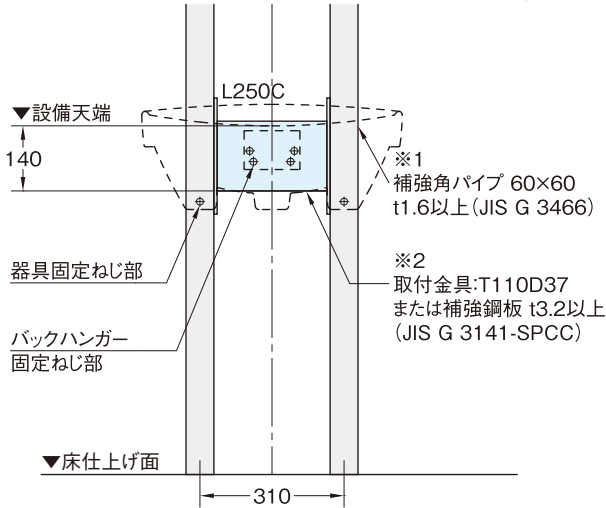
設計・施工時の留意点

設備機器が取り付く下地の補強方法

洗面器が取り付く場合

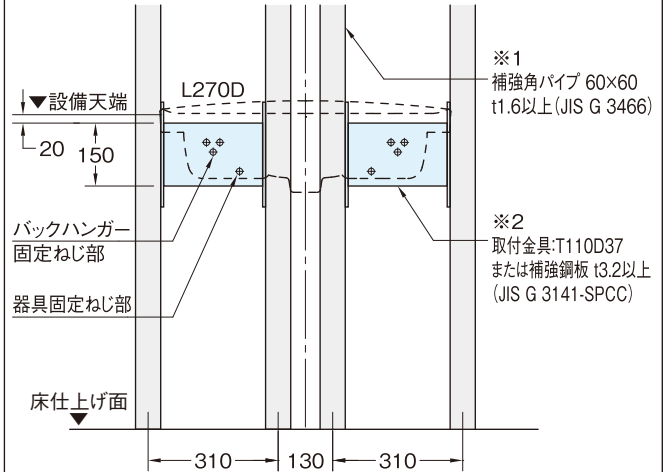
参考図:L250系

※1:下地の反り防止用。
※2:ねじの抜け防止用。



参考図:L270系

※1:下地の反り防止用。
※2:ねじの抜け防止用。



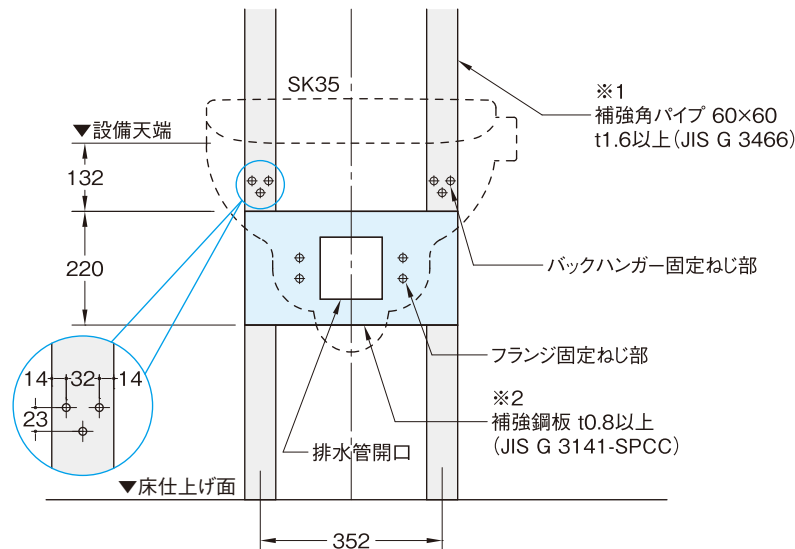
- 器具固定ねじ部分の下地裏面に角パイプ(60mm角、t=1.6mm以上)を入れてください。
- バックハンガー固定ねじ部分の下地裏面に鋼板(t=3.2mm以上)を入れ、角パイプに固定してください。
→鋼板は手すり用取付金具(T110D37)が使用できます。

※補強木で対応する場合は、設計施工資料集の「衛生陶器を設置する際の壁補強(乾式工法)補強材が合板補強の場合」を参照ください。(ただしL250系を設置する場合は、補強木の厚みを36mm以上としてください)

汚物流しが取り付く場合

参考図:SK35

※1:下地の反り防止用。
※2:ねじの抜け防止用。



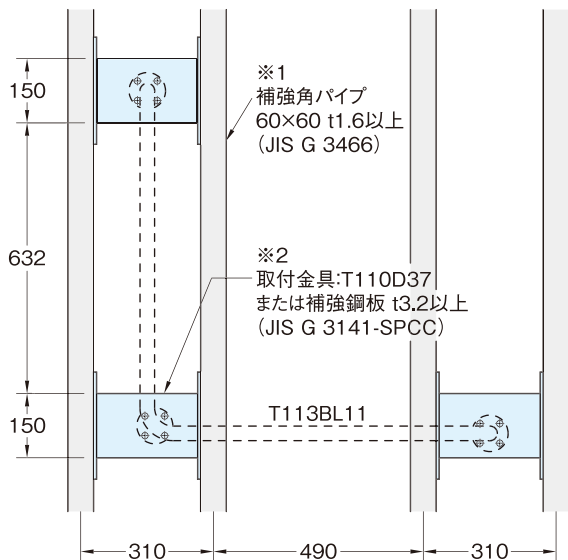
- バックハンガー固定ねじ部分の下地裏面に角パイプ(60mm角、t=1.6mm以上)を入れてください。
- 排水フランジ固定ねじ部分の下地裏面に鋼板(t=0.8mm以上)を入れてください。

※12mm以上の構造用合板(JAS規格品)を下地全面に使用する場合、角パイプおよび鋼板は不要です。

手すりを取り付く場合

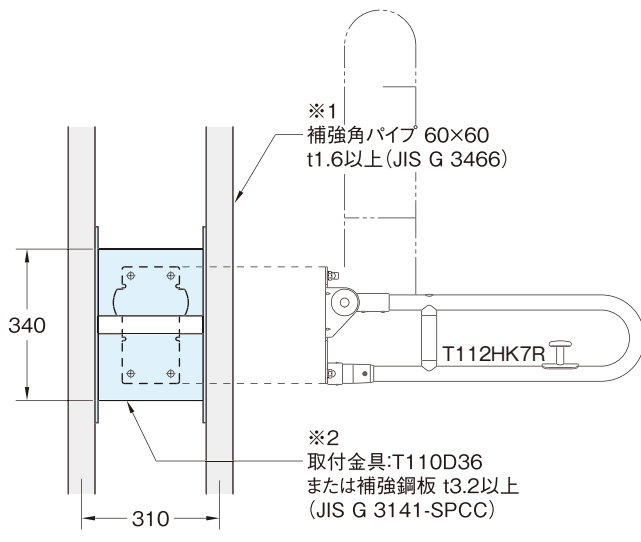
参考図:T113BL11

※1:下地の反り防止用。
※2:ねじの抜け防止用。



参考図:T112HK7R

※1:下地の反り防止用。
※2:ねじの抜け防止用。



●フランジ固定ねじ部分の下地裏面に手すり用取付金具(T110D37など)または鋼板(t=3.2mm以上)を入れ、角パイプに固定してください。

【取り付けできない手すり】

ハンドグリップ、レストルームドレッサーオプション品のUGYHR600W2は取り付けできません。

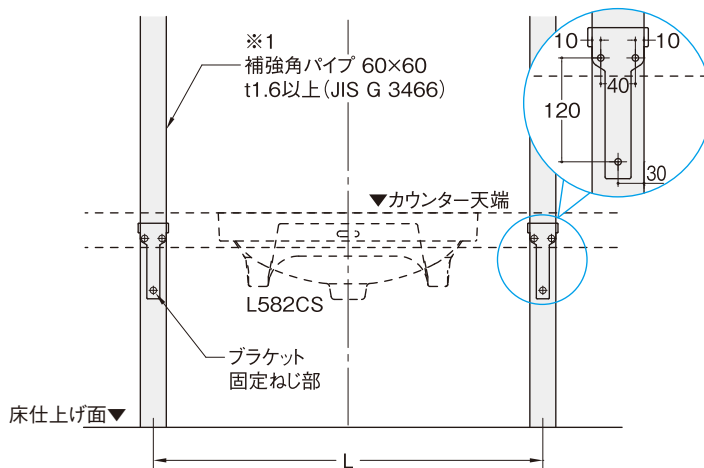
【手すり別補強方法一覧】

手すり種類		補強方法
可動式	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリック用手すり はね上げ手すり【T112H,113H,114H型】 ・アームレスト【EWC702,703型】 ・はね上げ手すり【EWC73型】 ・前方ボード(スイングタイプ)【EWC74型】 ・前方ボード(はね上げタイプ)【EWC72型】 ・トイレ用手すり はね上げタイプ(壁固定)【EWC77,78型】 	上図補強を行う。 ※補強木対応では取り付けできません。
	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリック用手すり【T112,113,114型】 	
固定式	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリア・バー【TS134・TS135型】※ ※1タイプ(前出120mm)を横向きに取り付けて使用する場合は、 手すりの施工要領に従って補強してください。 ・インテリア・バーFシリーズ【TS136型】 ・インテリア・バー(コンテンポラリタイプ)【YHR型】 ・フリースタイル手すり【EWT型】 ・木製手すり 柵タイプ【YHB63N型】 	12mm以上の構造用合板(JAS規格品)を下地全面に使用する 場合、角パイプおよび鋼板は不要です。
	<ul style="list-style-type: none"> ・木製手すり【YHB63,403,603型】※ ※柵タイプ(YHB63N型)を除く 	24mm以上の構造用合板(JAS規格品)を下地全面に使用する。

カウンターが取り付けく場合

参考図:L582CS

※1:下地の反り防止用。



●ブラケット固定ねじ部分の下地裏面に角パイプ (60mm角、t=1.6mm以上) を入れてください。

※12mm以上の構造用合板 (JAS規格品) を下地全面に使用し、かつ下地裏面に60mm以上の補強木を入れる場合、角パイプは不要です。補強木の範囲はカウンター取付位置より100mm以上広くし、強固な柱などにしっかりと固定してください。

その他

●棚付紙巻器

→固定ねじ部の下地裏面に鋼板 (t=0.8mm以上) を入れてください。

※12mm以上の構造用合板 (JAS規格品) を下地全面に使用する場合、鋼板は不要です。

●フック・タオルなどのアクセサリ類

→固定ねじ部の下地裏面に鋼板 (t=0.8mm以上) を入れてください。

※12mm以上の構造用合板 (JAS規格品) の下地もしくは補強木を使用する場合、鋼板は不要です。

●ベビーシート・ベビーチェア・フィッティングボード

→設備機器の補強ガイドに従ってください。
(補強鋼板や補強木を入れるなど)

●背もたれ

→パブリック用手すりと同じ補強を行ってください。

施工手順

施工の流れ

施工手順

作業のポイント

重要

1 下地補強 P.5~8

最初に必ず行うこと

- 元請様と事前の打ち合わせを!
- 下地の反り防止には補強角パイプを!
- ねじの抜け防止には補強銅板・軽量鉄骨用取付金具を!

2 道具の準備 P.10

作業の質と効率を向上させる工具選び

- 切断には…磁器タイル用ダイヤモンドホイール
- エッチ処理には…ディスクグラインダー砥石 / ダイヤモンド砥石
- 穴あけ加工には…ディスクグラインダー / 磁器タイル用ドリル刃 / 磁器タイル用ダイヤモンドホールソー
- 張り付けには…5mmクシ目コテ / ガラス用吸盤

3 運搬・搬入 P.11

割れない、欠けない上手な運び方・置き方

- 持ち方は「縦持ち」が基本!

4 割り付け P.12

トラブルの起きない割り付け・墨出し

- 開口部周りは切り欠かないように目地を設ける!
- 切り欠き部が出ないように割り付ける!

躯体の動きによる破損を予防

5 切断 P.13~15

仕上がりのきれいな切断の仕方

- 丸ノコの刃は磁器タイル用の刃に!
- 切断時はハイドロセラ・ウォール裏面にすき間をつくらないように!
- 刃の出幅は7mmにセット!

- 切断は裏面ではなく表面側から!
- 丸ノコの台座には養生テープを!

キレイに仕上がり破損も低減する

6 加工 P.16

失敗しない加工テクニック

- 「コンセントボックス」は四隅に穴をあけてから切断!
- 丸穴あけは磁器タイル用ドリル刃または磁器タイル用ダイヤモンドホールソーで!

開口部からの破損を予防

7 接着 P.17~19

簡単・正確・確実な接着方法

- 接着剤、両面テープは必ず専用品を使う!
- 接着剤塗布は5mmのクシ目コテを使って全面接着!
- 接着面にすき間ができないように順序を守って圧着する!

圧着不足は破損に直結!

重要

8 設備機器 の取り付け P.20~28

施工後に差が出る機器の取り付け

- 荷重のかかるねじ周りは、縁を切って破損を防止!
- 手すりがハイドロセラ・ウォールと直接あたらないように固定!
(ハイドロセラ・ウォールを縁切りし、手すりを嵩上げ保持する)
- ハイドロセラ・ウォールへのねじ下穴あけは、ねじ径+4mmで!

設備取付部の破損を予防

納まり例 P.29~34

施工手順

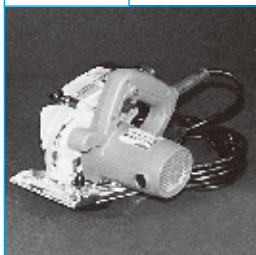
事前準備

切断・穴あけなどに使用する主な電動工具

ディスクグラインダー



防じん丸ノコ



回転数9000回転以上

集塵機



電動ドリル



振動ドリルは使用できません

施工に使用する各種道具

切断用工具

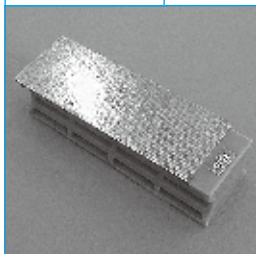
磁器タイル用ダイヤモンドホイール(波型)



TOTO AY401
外径105×刃厚1.0×
チップ高さ5.0×内径20

切断後のエッチ処理

ダイヤモンド砥石



番手#100~400程度

オービタルサンダー



ねじの取付け穴あけ

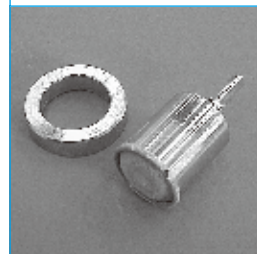
磁器タイル用ドリル刃



使用するねじ径よりも
4mm以上大きいサイズ

給排水管などの穴あけ

磁器タイル用ダイヤモンドホールソー



TOTO AY400(φ40)
AY500(φ50)

ねじ周辺の縁切りやフランジ用の穴あけ

磁器タイル用ダイヤモンドホールソー



目的に応じてφ54~80を使用く
ださい。P.21に設備別の推奨寸
法を記載しています。

BOSCH ホールソー用シャンク



ストレートシャンク10mm PWC-SR10
13mm PWC-SR13
SDSプラスシャンク PWC-SDS

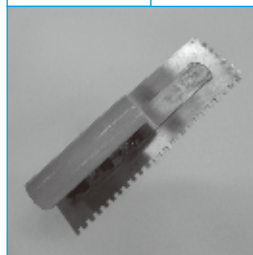
位置決めガイド



BOSCH DHS-CG

接着剤塗布・張り付け

5mmクシ目コテ

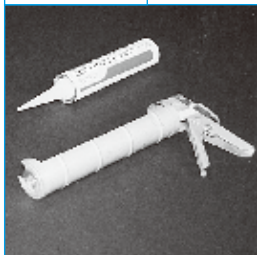


ガラス用吸盤



シーリング処理

コーキングガン



注意



必ず実行

作業時は、切創防止や滑り止め手袋を着用する
けがをするおそれがあります。

加工時は、保護マスクや保護メガネを着用し、集じん機を
使用し換気をよくする
目のけがや健康を害するおそれがあります。

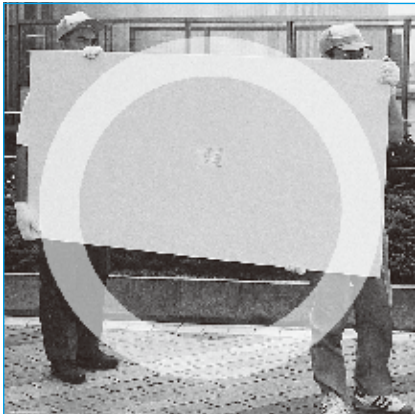
施工手順

運搬・搬入

※ハイドロセラ・ウォールはセラミック(陶磁器)です。落としたり強い衝撃を与えると割れるおそれがあります。

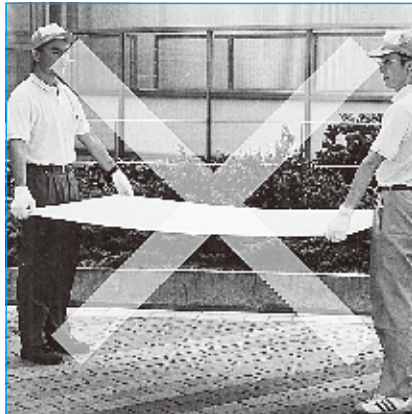
ヨレやタワみによる「割れ」を防ぐために。

運び方の良い例



縦持ちすると安心です

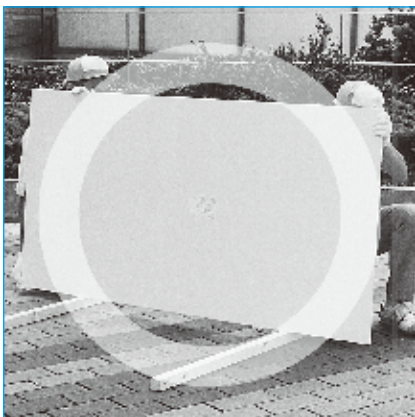
運び方の悪い例



平持ちするとタワんで割れてしまうことも...

パネルの角の「割れ」や「欠け」を防ぐために。

置き方の良い例

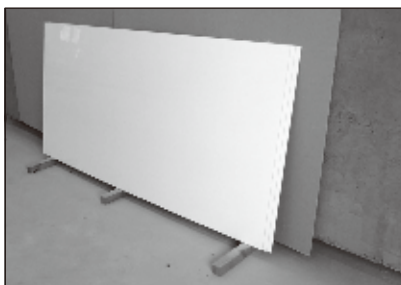


栈木をかませておけば安心!

置き方の悪い例



直置きするとパネルの角を損傷することが...



※1品番1回当たりの出荷が11枚以上の場合は、パレット輸送、10枚以下の場合は個別包装です。

※仮置きの際は栈木をかいものにし、横向きに立て掛けてください。

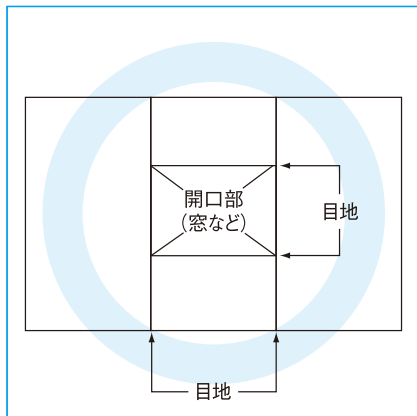
※仮置きの際、表面同士を合わせて置くことは、お避けください。

施工手順

割り付け・墨出し

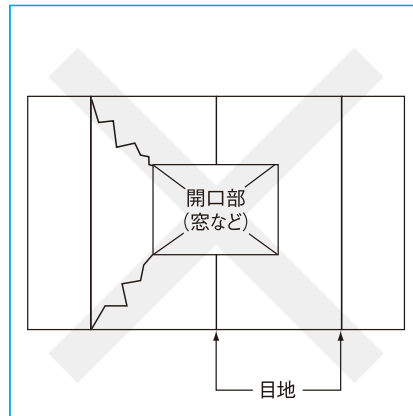
開口部の割り付け

ハイドロセラ・ウォールで挟むように
開口部を割り付ける



「割れ」の心配がない。

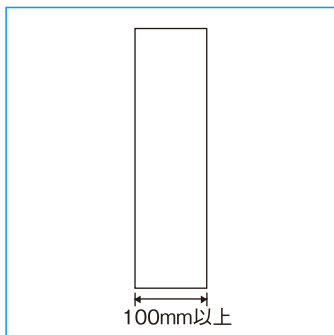
開口部を切り抜く



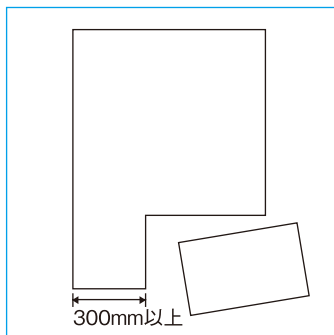
躯体の動きによってヒビや割れが...

小幅物や端部の加工

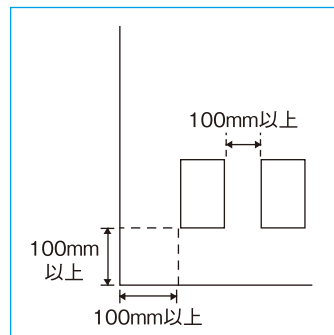
小幅物は
100mm以上確保する



切り欠きなどの残り幅は、
必ず300mm以上確保する

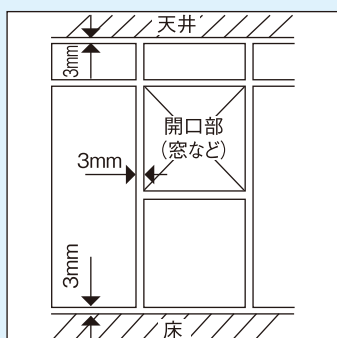


コンセントボックスなどの穴あけも
残り幅と間隔を100mm以上に



ポイント

床・天井・開口部も突き付けは避ける



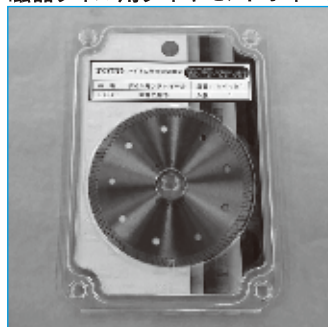
- 残り幅や間隔が小さくならないように割り付けを工夫してください。やむを得ず小さくなる場合は、取り扱い時などに破損しないよう、十分注意してください。

施工手順

切断

1.丸ノコの刃は磁器タイル用の刃に!

磁器タイル用ダイヤモンドホイール(波型)



TOTO AY401
外径105×刃厚1.0×
チップ高さ5.0×内径20
(mm)
※他社品をご使用の
際は、上記サイズを
参照してください。

チップソー



⚠ 注意

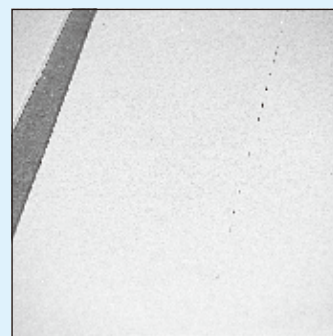
●チップソーでは切れません。

ポイント 丸ノコの台座に養生テープを貼って切断

- 丸ノコの台座に養生テープなどで養生してから切断するようにしてください。

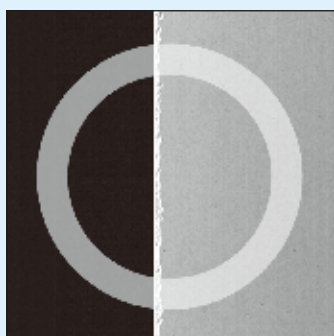


- 養生せずに切断すると表面に金属跡がついてしまうことがあります。
- 誤って金属跡が残ってしまった場合は、酸性洗剤で取ることができます。

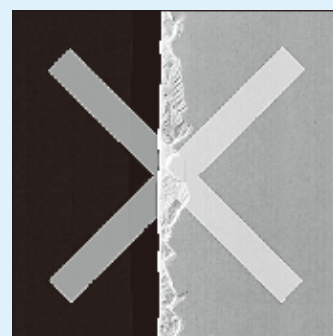


ポイント 表面側から切断する

- 表面側から切断するとチップングを抑えられます。

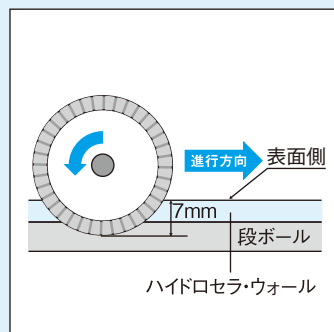


- 裏面側から切断すると大きなチップングが発生します。



ポイント 刃の出幅は7mmにセットして切断

- 刃の出幅を7mmにして段ボールごと切断するのがコツです。



⚠ 注意



禁止

スタイロフォームなど可燃性のものは下敷きしない
切断の最中に刃が高温になり溶け出しやけどをするおそれがあります。

施工手順

切断

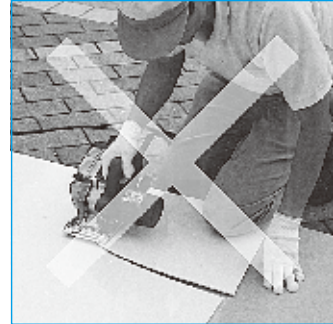
2.作業は体重をかけない姿勢で!

ポイント 平らな場所に、段ボールを敷いてゆっくり切断

- 定規などをあてて切断することで未然にクラックを防止でき、チッピングが少なくできます。

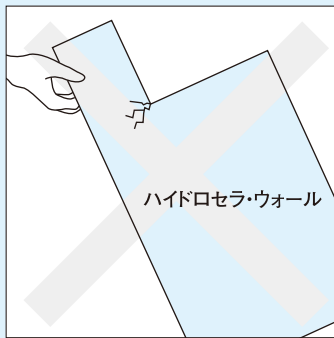


足やヒザで hidroセラ・ウォールに体重をかける



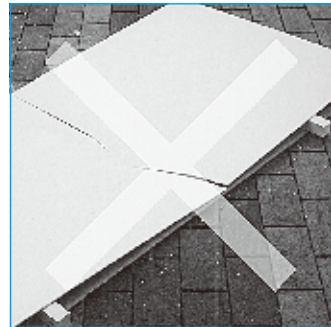
作業面が不安定だと割れる

ポイント 持ち運ぶ時は、細い部分を持たないようにする



3. 栈木で橋渡しせず平面に置く!

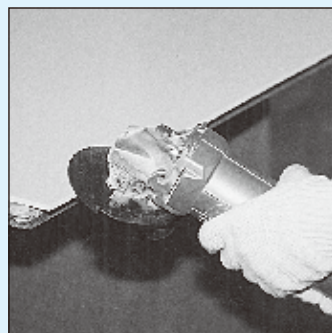
栈木を敷いて切断



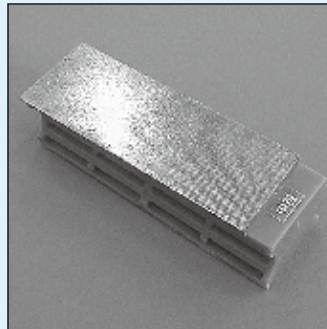
一気にクラックが走る

ポイント 切断面のチッピングは、ディスクグラインダー砥石で処理する

- hidroセラ・ウォールは乾式で切断するため、若干のチッピングが発生します。ディスクグラインダー砥石やダイヤモンド砥石でエッチ処理してください。オービタルサンダーでも処理は可能です。



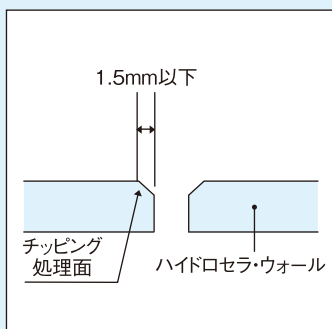
ダイヤモンド砥石



オービタルサンダー



- 処理面が大きすぎると目地幅が広がりますのでご注意ください。



その他の切断方法

ガラスカッター（ローラータイプ）
板厚5～6mm対応のもの



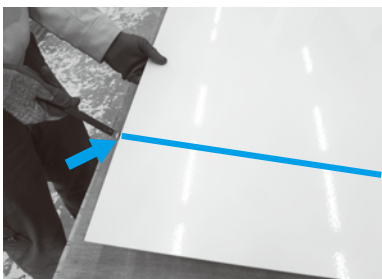
- ハイドロセラ・ウォールは、ガラス切断用のガラスカッターでも切断することができます。
- 騒音、粉じんが出ません。



切断箇所に置いた定規に、ガラスカッターを押し当てる。



端から端まで一気に切り込みを入れる。



切り込み部分の裏からガラスカッターの柄で軽くたたく。



切り込み部の真下にガラスカッターの柄を置き、上から押さえると割れます。



作業台の端を利用して割ることもできます。



裏面のガラスクロスをカッターなどで切断する。

切断面をダイヤモンド砥石で仕上げて完了。

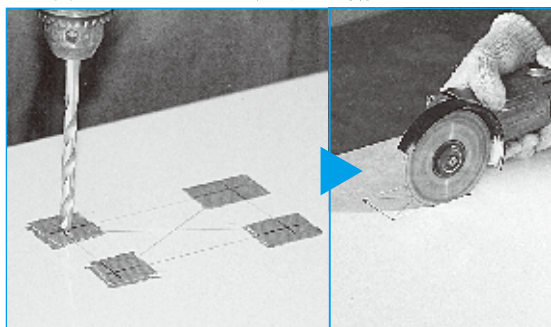
- 切り欠き、穴あけはできません。
- 特殊面状は切断できません。
- 100mm以下の幅には切断できません。

施工手順

加工

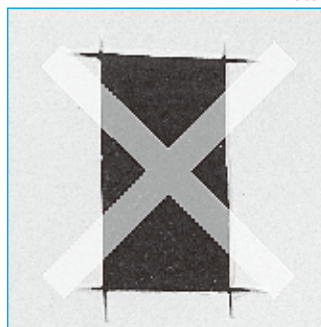
「コンセントボックス」は四隅に穴をあけてから切断!

穴を開けてから穴をつなぐように切断



角を丸くして割れの誘発を防ぐ

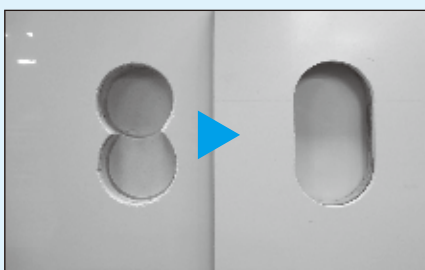
ディスクグラインダーだけで切断



切りすぎた部分がひび割れの原因に

アドバイス

こんな穴あけ方法もあります



※ダイヤモンドホールソーで上下2つ穴をあけ、つなげて完成。

⚠ 注意



禁止

不安定な場所で加工しない
破損しけがをするおそれがあります。

丸穴あけは磁器タイル用ドリルまたは磁器タイル用ダイヤモンドホールソーで!

10mm以下は磁器タイル用ドリルで穴あけ



※基本
ビス径+4mmのドリル刃を使用する

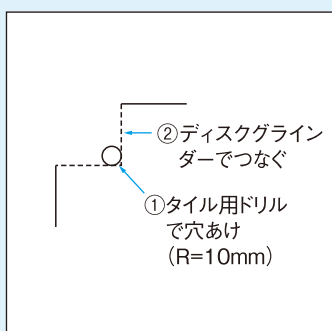
10mm以上は磁器タイル用ダイヤモンドホールソーで穴あけ



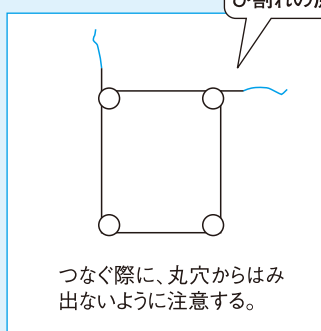
ポイント

角部を丸くすることで割れの誘発を防止

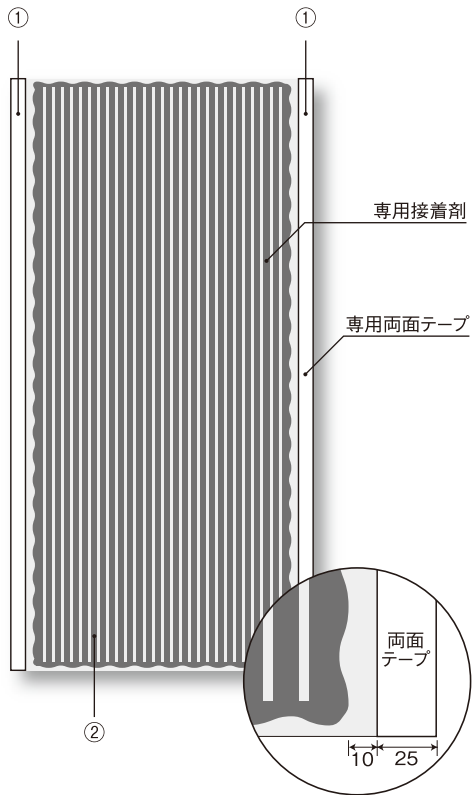
○切り欠きを行う場合は、角部からの割れの誘発を防止するために、角部を丸くします。



ディスクグラインダーでつなぐ際に切り過ぎると、ひび割れの原因になります。



接着剤塗布・両面テープ張付方法



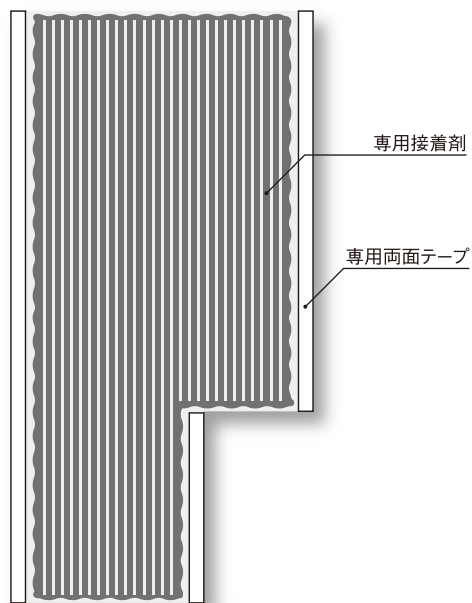
両面テープから10mm程度あける

- ①専用両面テープをハイドロセラ・ウォールの長手方向両端部に張る
- ②専用接着剤を5mmのクシ目コテで全面に塗布する
このとき、両面テープと接着剤の間は10mm程度あけ、両面テープと同一方向に直線引きしてください。

※塗布量の目安
1m²あたり1袋(2.0kg)が目安です。

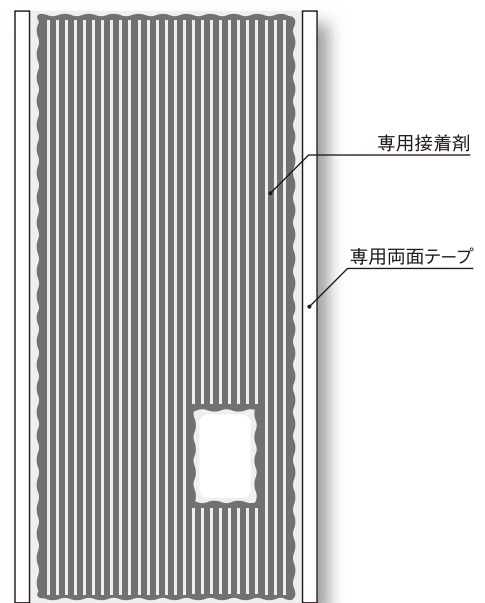
- 下地がけい酸カルシウム板の場合は、事前にプライマー処理を施してください。
- 養生期間は夏期24時間、冬期48時間以上です。設備機器を取り付ける際は十分ご注意ください。
- モルタル施工はできません。

切り欠きがある場合



- 切り欠き部の縦方向端部にも両面テープを張り、その他の部分は専用接着剤をクシ目コテで全面塗布してください。

コンセントボックスなど小さな開口がある場合



- 開口部周囲は必ず専用接着剤を塗布してください。

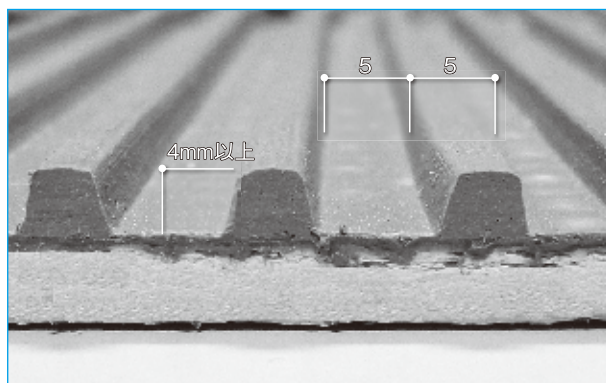
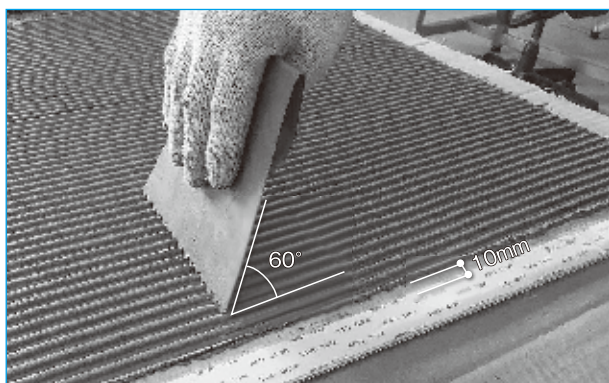
施工手順

接着

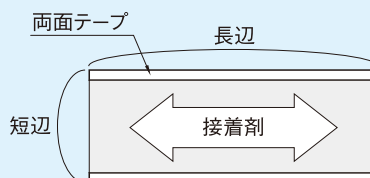
1. フィルムパックの端部を開封し、しぼり出す。



2. しぼり出した接着剤をクシ目コテを用いて、かき取るように引く。



- 両面テープは長辺方向の端部に張ります。
- 接着剤は両面テープと同じ方向に直線引きします。
- 両面テープと接着剤の間は約10mm程度あけます。
- クシ目の山は4mm以上立てます。(60度の角度で引くと立ちやすい)



こんな場合はNGです!



警告



必ず実行
接着不良は設備取り付け時や経年劣化に対応できず、割れや剥がれの原因となります。5mmのクシ目コテを使用し、正しく施工する

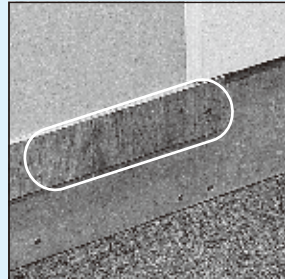
アドバイス 吸盤とガイド板があれば、作業効率がアップ

○ハイドロセラ・ウォールを吸盤を使って持ち、下部に設けたガイド板を使ってスライドさせてください。本固定が1人でもスムーズに行えます。

ガラス板の吸盤

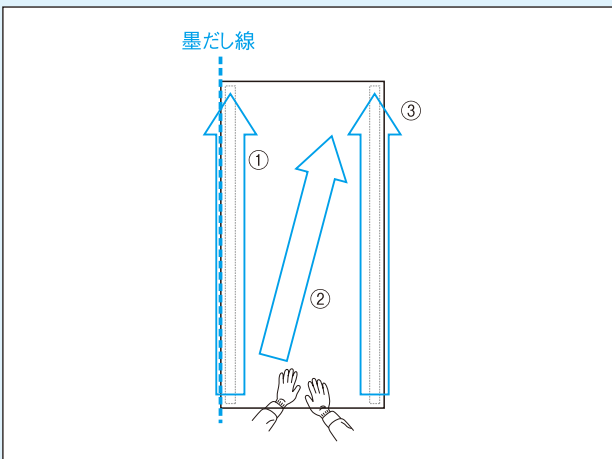


ガイド板



※面状によっては吸盤が付かない場合があります。

重要 接着面にすきまができないように順序を守って圧着する



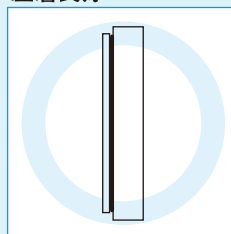
- 張り付けの際は、墨だし線や入隅などの位置に合わせ、
- ①位置決めした側の両面テープ部分を下から上へ押さえる
 - ②中央部分を下から上へ空気を逃がすように押さえる
 - ③もう片方の両面テープ部分を下から上へ押さえる

アドバイス シーリングすきま(3mm)は、スペーサーを利用すると便利

○両面テープで取り付けしたスペーサーにハイドロセラ・ウォールを押し付けて固定するとシーリングすき間(3mm)の確保も楽に確実に行えます。

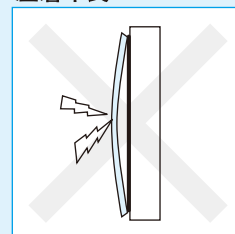


圧着良好



密着

圧着不良



すき間あり

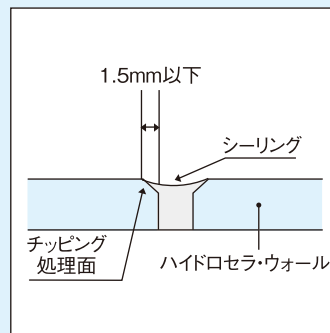
仕上げにパネルジョイント部にシーリング処理をして完成です。



ポイント チッピング処理面を覆うようにシーリング処理

○チッピング処理面を覆うようにシーリング処理してください。

- ※水がかりのある場所への設備取り付けは必ずシーリング処理してください。
※カット面はできる限り、入隅側・天井側・床側に飲み込ませるようにしてください。



設備機器の取り付け

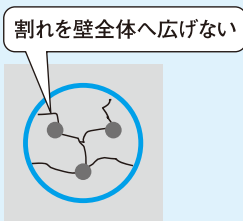
施工後の破損を防ぐために

ハイドロセラ・ウォールに設備機器を取り付ける場合、
施工後の破損を防ぐために下記の対策を行ってください。

1. ねじ周りの縁切り

荷重のかかるねじの周囲をダイヤモンドホールソーで円形に縁切りすることで、
万が一ねじ部から割れが生じて、壁全体へ割れを広げないためのハイドロセラ・ウォールへの加工です。

対象部位:バックハンガー固定ねじ、フランジ固定ねじ、手すり固定ねじ



アドバイス

ダイヤモンドホールソーに養生テープを
張って縁切り深さの目安に!



刃の深さはハイド
ロセラ・ウォール
の厚さ+1mm

- ダイヤモンドホールソーで円形に縁切りすることがポイントです。ディスクグラインダーなどで四角に切り欠くと破損の原因になりますので、おやめください。
- ハイドロセラ・ウォールへの加工です。下地までは切らないでください。

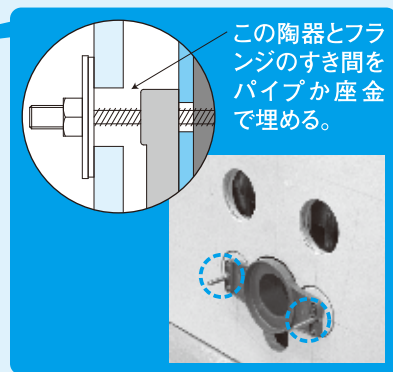
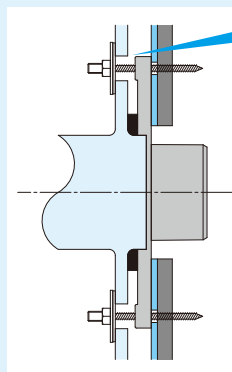
詳しくは、次ページ以降をご確認ください。

2. フランジの変形防止

排水フランジの器具固定ボルトを締め込む際、器具とフランジとの間にすき間があるため、締め込み過ぎるとハイドロセラ・ウォール(壁面)が引っ張られて破損するおそれがあります。そこで、陶器の器具固定ボルト穴にパイプもしくは座金を差し込み、ナットの締めすぎを防止します。

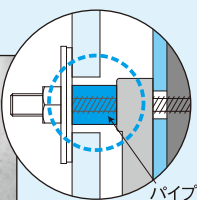
対象設備:

壁掛大便器、壁掛小便器、汚物流し など

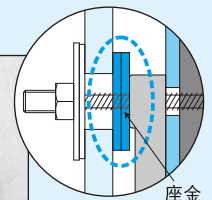
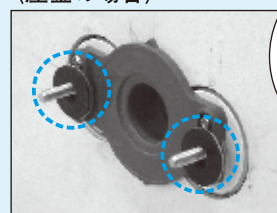


- パイプ・座金は現場手配となります。
- パイプは肉厚1mm以上の塩ビ管、鋼管などをご使用ください。
- HP900系フランジ、HP500系ソケットを使用する小便器には不要です。

〈パイプの場合〉



〈座金の場合〉



※便器取付前に採寸が必要です。

詳しくは、各設備機器の取付方法をご確認ください。

設備機器の取り付け

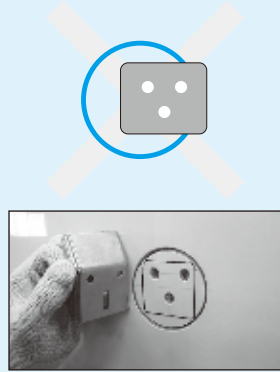
縁切り位置の詳細図

バックハンガー固定ねじ周りの縁切り

バックハンガー形状と縁切りの位置	<p>バックハンガー ねじ穴 縁切り部 (推奨径φ79~80)</p>	<p>バックハンガー ねじ穴 縁切り部 (推奨径φ79~80)</p>	<p>バックハンガー ねじ穴 縁切り部 (推奨径φ79~80)</p>
	縁切り数	1	2
バックハンガー品番	T9R, T9RA, T9N TL120D, TL220D	HM80	TL250-1D, TL250D
対象設備	洗面器、手洗器、 流し、小便器	手洗器	洗面器

ポイント

バックハンガーを
円の内側に



※水が入り込むおそれのある場合は、縁切り部分をシーリング処理してください。

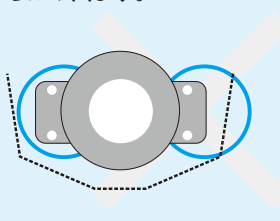
フランジ固定ねじ周りの縁切り

縁切りの位置	<p>排水フランジ 排水穴 ねじ穴 縁切り部 (推奨径φ79~80)</p>	<p>〈縁切り部分の中心位置の目安〉 ねじ穴から10mm内側 ※加工前にフランジを当てて確認してください。</p> <p>10mm 10mm ねじ穴 縁切り部中心位置 (径φ79~80)</p>
縁切り数	2	
対象設備	大便器、小便器、汚物流しなど	

ポイント

フランジ固定部を円の内側にかつ、
陶器からはみ出ないように

外側に切りすぎると陶器からはみ出ます。



※水が入り込むおそれのある場合は、縁切り部分をシーリング処理してください。

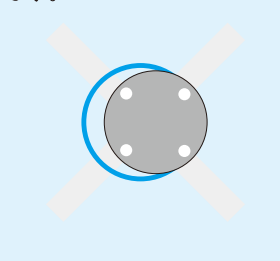
手すり固定ねじ周りの縁切り

縁切りの位置	<p>手すり取付プレートおよび 手すりフランジ ねじ穴 縁切り部 カバー</p>	<p>手すり取付 プレート ねじ穴 手すり 台座 縁切り部4カ所</p>		
対象手すり	T112, 113型	T114型, TS134, 135, 136型	YHR型	可動式
縁切り推奨径	φ79~80	φ67	φ54	φ40
推奨工具	BOSCH DHS-079C (φ79)	BOSCH DHS-067C (φ67)	BOSCH DHS-054C (φ54)	TOTO AY400 (φ40)

ポイント

カバーから
はみ出ないように

縁切り位置がずれるとカバー
や台座を付けたときにはみ出
ます。



※上記の対象手すり取り付けの際は、手すり取付プレート(別途品揃え)を必ずご使用ください。

※水が入り込むおそれのある場合は、縁切り部分をシーリング処理してください。

※上記対象手すり以外の手すりには、縁切り加工、手すり取付プレートは不要です。

設備機器の取り付け

壁掛大便器の取り付け方

※取付前に必ずP.20～21をご確認ください。


ハイドロセラ・ウォールへの壁掛大便器取付手順

けがき



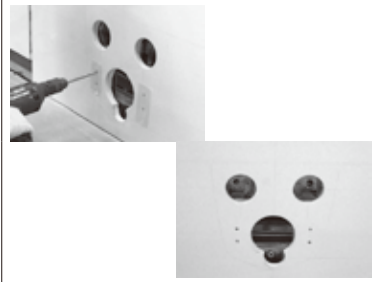
ねじ穴や排水穴などをけがく。

穴あけ



ダイヤモンドホールソーで取付スタンド用の穴をあける。下地材は自在カンナなどであける。

下穴あけ(ハイドロセラ・ウォール)



ハイドロセラ・ウォールにフランジ固定ねじの下穴をあける。下穴径はねじ径+4mm。
ポイント:下地にはあけない。

下穴あけ(下地)



下地および裏面補強材にフランジ固定ねじの下穴をあける。下穴径は3～3.5mm。(TOTOドリルねじ固定の場合)
参考:ドリル刃の根元にゴム板などを付けてハイドロセラ・ウォールとの接触を防ぐ。

縁切り 重要



フランジ固定ねじ周りをダイヤモンドホールソーで縁切りする。
ポイント:下地にはあけない。また、ハイドロセラ・ウォールはがさない。
参考:縁切りの際、位置決めガイドを使用すると、ズレ防止になる。

フランジ取り付け



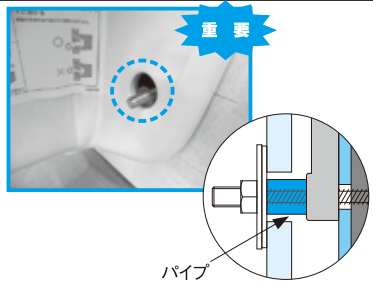
フランジを取り付ける。
ポイント:最後は必ず手締めする。

採寸 重要



陶器を仮置きし、フランジ変形防止用のパイプを採寸する。
参考:パイプ内径12～13mm。
ポイント:パイプは現場手配。

フランジ変形防止 重要



陶器の面に合うようにパイプを切断し、ボルトへ挿入する。
ポイント:長すぎると陶器が固定されないで面からは出ないように。

便器取り付け



便器を取り付ける。
ポイント:ねじ締め込みの最後は手締めで行う。
参考:締め付けトルク5N・m程度。

裏面補強材に角パイプや鋼板を使用した場合、付属の木ネジでは入りません。ドリルねじ(TOTO別売品や現場手配)を使用してください。

設備機器の取り付け

壁掛小便器の取り付け方

※取付前に必ずP.20~21をご確認ください。

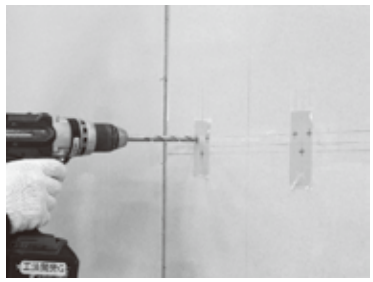
ハイドロセラ・ウォールへの壁掛小便器取付手順

けがき




ねじ穴や排水穴などをけがく。

下穴あけ(ハイドロセラ・ウォール)



ハイドロセラ・ウォールにバックハンガーおよびフランジ固定ねじの下穴をあける。下穴径はねじ径+4mm。
ポイント:下地にはあけない。
参考:あらかじめ養生テープを張っておくとドリル刃のズレ防止になる。

下穴あけ(下地)



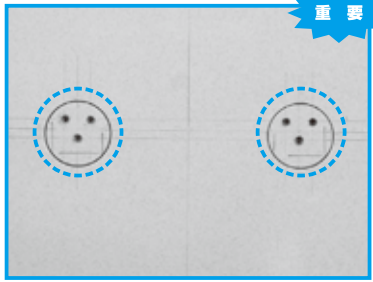
下地および裏面補強材にバックハンガーおよびフランジ固定ねじの下穴をあける。下穴径は3~3.5mm。(TOTOドリルねじ固定の場合)
参考:ドリル刃の根元にゴム板などを付けてハイドロセラ・ウォールとの接触を防ぐ。

縁切り 重要



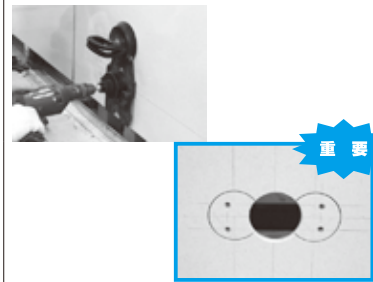
バックハンガー固定ねじ周りをダイヤモンドホールソーで縁を切る。
ポイント:下地にはあけない。また、ハイドロセラ・ウォールははがさない。
参考:縁切りの際、位置決めガイドを使用するとズレ防止になる。

縁切り 重要



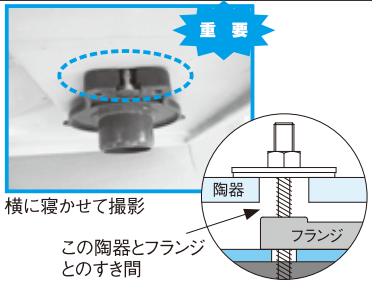
バックハンガーが円の中に入るように注意する。

縁切り 重要



フランジ固定ねじ周りにもダイヤモンドホールソーで縁切りする。
ポイント:下地にはあけない。また、ハイドロセラ・ウォールははがさない。

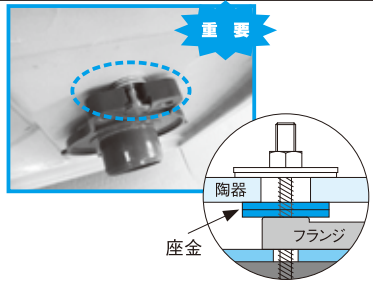
フランジ変形防止 重要



横に寝かせて撮影
この陶器とフランジとのすき間

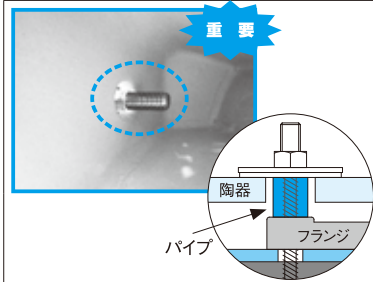
フランジ取付前に便器とフランジのすき間を確認する。このすき間が締め付けにより破損の原因になる。
便器を横に寝かせると確認しやすい。

フランジ変形防止 重要



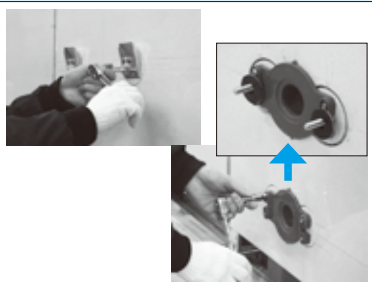
フランジと便器とのすき間を座金(現場手配)で埋めるための採寸をする。
ここですき間厚みを確認しておき、便器設置時に再度取り付ける。

フランジ変形防止 重要



座金ではなく、パイプ(現場手配)を採寸して挿入してもよい。(壁掛大便器と同様)

バックハンガー・フランジ取り付け



バックハンガーおよびフランジを取り付ける。
器具固定ボルトに座金を差し込む。
ポイント:ねじ締め込みの最後は手締めで行う。

便器取り付け



小便器を取り付ける。
参考:器具固定ボルトの締め付けトルク5N・m程度。

裏面補強材に角パイプや鋼板を使用した場合、付属の木ネジでは入りません。ドリルねじ(TOTO別売品や現場手配)を使用してください。

設備機器の取り付け

洗面器の取り付け方

※取付前に必ずP.20~21をご確認ください。


ハイドロセラ・ウォールへの洗面器取付手順

けがき



ねじ穴や給排水穴などをけがく。

下穴あけ(ハイドロセラ・ウォール)



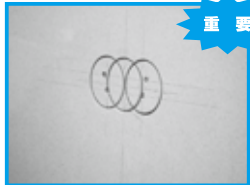
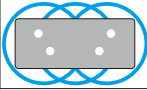
ハイドロセラ・ウォールにバックハンガー固定ねじの下穴をあける。下穴径はねじ径+4mm。
ポイント:下地にはあけない。
参考:あらかじめ養生テープを張っておくとドリル刃のズレ防止になる。

縁切り



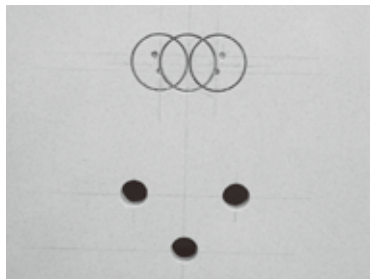
バックハンガー固定ねじ周りをダイヤモンドホールソーで縁を切る。
ポイント:下地にはあけない。また、ハイドロセラウォールははがさない。
参考:縁切りの際、位置決めガイドを使用するとズレ防止になる。

縁切り

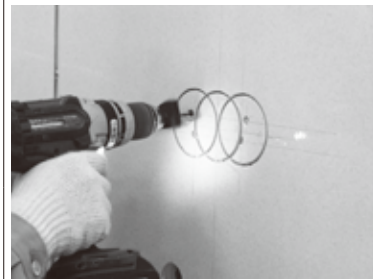
バックハンガーが円の中に入るように注意する。
ポイント:バックハンガーが長方形の場合は、円を3つ連ねる。

穴あけ



ダイヤモンドホールソーで給排水管の穴をあける。

下穴あけ(下地)




下地および裏面補強材にバックハンガー固定ねじの下穴をあける。下穴径は3~3.5mm。(TOTOドリルねじ固定の場合)
参考:ドリル刃の根元にゴム板などを付けてハイドロセラ・ウォールとの接触を防ぐ。

バックハンガー取り付け




バックハンガーを取り付ける。
ポイント:最後は手締めする。

けがき




洗面器を仮置きし、器具固定ねじの穴位置をけがく。

下穴あけ(ハイドロセラ)



ハイドロセラ・ウォールにねじの下穴をあける。下穴径はねじ径+4mm。
ポイント:下地にはあけない。

下穴あけ(下地)



裏面補強材に下穴をあける。下穴径は3~3.5mm。

便器取り付け



洗面器を取り付ける。
ポイント:ねじ締め込みの最後は手締めで行う。

裏面補強材に角パイプや鋼板を使用した場合、付属の木ネジでは入りません。ドリルねじ(TOTO別売品や現場手配)を使用してください。

設備機器の取り付け

汚物流しの取り付け方

※取付前に必ずP.20~21をご確認ください。

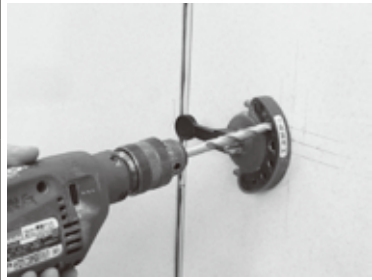
ハイドロセラ・ウォールへの汚物流し取付手順

けがき



ねじ穴や排水穴などをけがく。

下穴あけ(ハイドロセラ・ウォール)



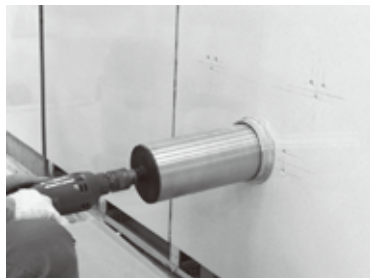
ハイドロセラ・ウォールにバックハンガーおよびフランジ固定ねじの下穴をあける。下穴径はねじ径+4mm。
ポイント:下地にはあけない。
参考:写真はドリルガイドを使用。

下穴あけ(下地)



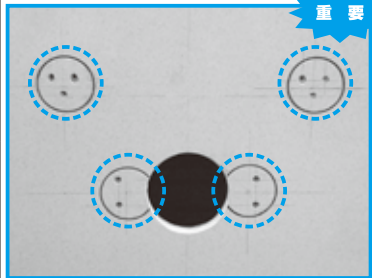
下地および裏面補強材にバックハンガーおよびフランジ固定ねじの下穴をあける。下穴径は3~3.5mm。(TOTOドリルねじ固定の場合)
参考:ドリル刃の根元にゴム板などを付けてハイドロセラ・ウォールとの接触を防ぐ。

穴あけ



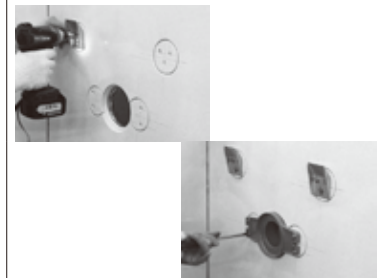
ダイヤモンドホールソーでハイドロセラ・ウォールに排水穴をあける。
下地材は自在カンナなどであける。

縁切り



バックハンガーおよびフランジ固定ねじ周りをダイヤモンドホールソーで縁切りする。
ポイント:下地にはあけない。また、ハイドロセラ・ウォールにははがさない。

バックハンガー・フランジ取り付け



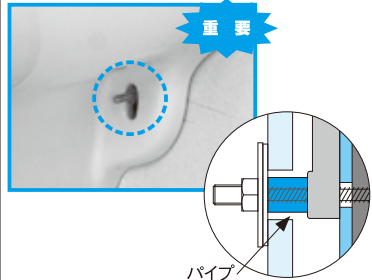
バックハンガーおよびフランジを取り付ける。
ポイント:最後は必ず手締めする。

フランジ変形防止



陶器を仮置きし、フランジ変形防止用のパイプを採寸する。
参考:パイプ内径12~13mm。
ポイント:パイプは現場手配。

フランジ変形防止



陶器の面に合うようにパイプを切断し、ボルトへ挿入する。
ポイント:長すぎると陶器が固定されないので面からは出ないように。

陶器取り付け



陶器を取り付ける。
ポイント:ねじ締め込みの最後は手締めで行う。
参考:締め付けトルク5N・m程度。

裏面補強材に角パイプや鋼板を使用した場合、付属の木ネジでは入りません。ドリルねじ(TOTO別売品や現場手配)を使用してください。


設備機器の取り付け

手すり(固定式)の取り付け方

※取付前に必ずP.20~21をご確認ください。

hidroセラ・ウォールへの手すり(固定式)取付手順 ※背もたれも同様の手順です。

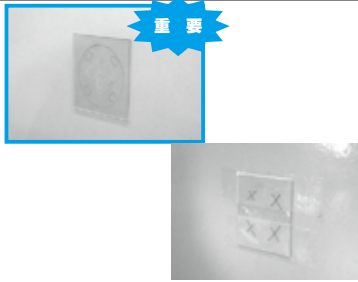
けがき



手すりのフランジ位置をけがき、ねじ位置に重ならないように薄手の両面テープ(現場手配)を張る。手すり取付プレートの表面保護フィルムははがしておく。

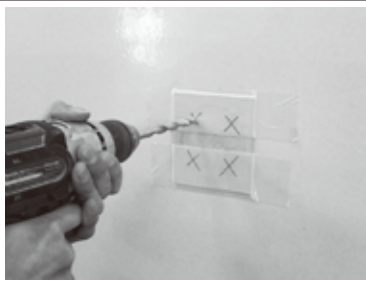
手すり取付プレート張り付け

重要



手すり取付プレートをフランジ位置に張り付ける。さらに、プレートの固定とドリル刃のズレ防止を兼ねて養生テープを張る。

下穴あけ(hidroセラ・ウォール)



磁器タイル用ドリル刃で手すり取付プレートごと hidroセラ・ウォールにねじの下穴をあける。下穴径はねじ径+4mm。
ポイント:下地にはあけない。

下穴あけ(下地)



下地および裏面補強材にねじの下穴をあける。下穴径は3~3.5mm。(TOTOドリルねじ固定の場合)

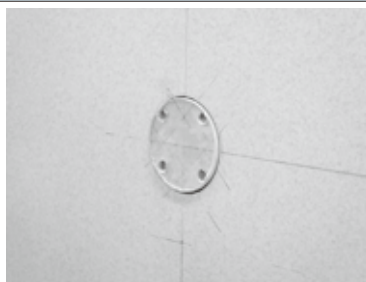
縁切り

重要



ダイヤモンドホールソー(※)で手すり取付プレートごとねじ穴周りを縁切りする。※径はP.21参照
ポイント:下地にはあけない。また、 hidroセラ・ウォールにははがさない。

縁切り



フランジ嵩上げ部分を残し、手すり取付プレートの不要部を取り除く。

手すり取り付け



手すりを取り付ける。
ポイント:ねじ締め込みの最後は手締めで行う。

嵩上げ確認



hidroセラ・ウォールと手すりフランジに約2mmの嵩上げができていることを確認する。

カバー



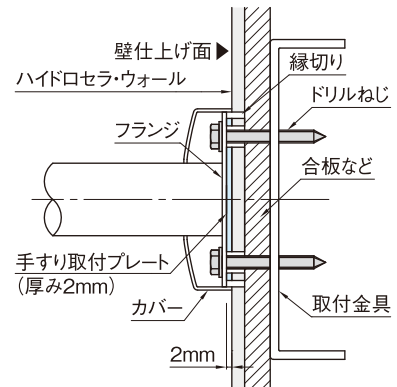
カバーをする。

- 必ず手すり取付金具を使用して補強してください。
- 縁切りはカバーからはみ出ないように注意してください。
- 浴室など水がかりのある場所では手すり取付プレート周囲をシーリング処理してください。
- P.21に記載されていない手すりには、縁切り加工、手すり取付プレートは不要です。

手すり取付プレート

- 手すり取付プレートにより、 hidroセラ・ウォールと手すりフランジとの間に約2mmの嵩上げができますので、 hidroセラ・ウォールと手すりフランジが接触するのを防ぎます。

品番	形状(mm)	材質	カラー
AD312	100×100×2	PET	透明



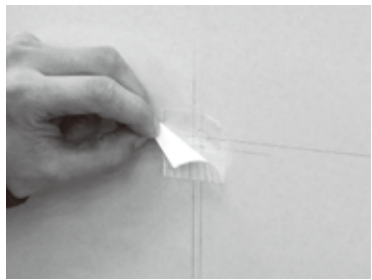
設備機器の取り付け

手すり(可動式)の取り付け方

※取付前に必ずP.20~21をご確認ください。

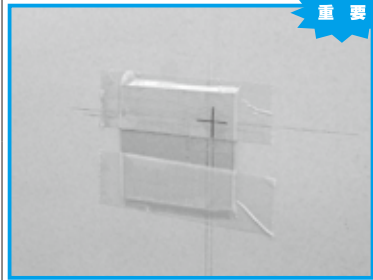
ハイドロセラ・ウォールへの手すり(可動式)取付手順 ※取付ボルトが先付けの場合も縁切り、嵩上げは必要です。

けがき



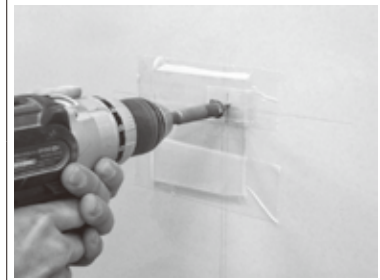
ボルト取付位置および縁切り位置をけがき、縁切りの内側に薄手の両面テープ(現場手配)を張り付ける。手すり取付プレートの表面保護フィルムははがしておく。
ポイント:ボルトごとに縁切りするため、けがき位置に注意する。(P.21参照)

手すり取付プレート張り付け



手すり取付プレートを縁切り位置に張り付ける。さらに、プレートの固定とドリル刃のズレ防止を兼ねて養生テープを張る。
参考:プレート1枚で最大4カ所(φ40)縁切りができる。

下穴あけ(ハイドロセラ・ウォール)



磁器タイル用ドリル刃で手すり取付プレートごとハイドロセラ・ウォールに下穴をあける。下穴径はボルト径+4mm。
ポイント:下地にはあけない。

下穴あけ(下地)



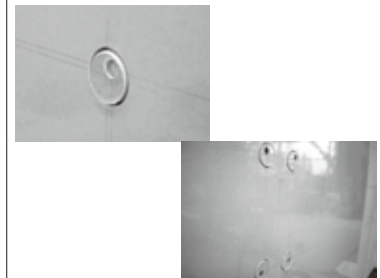
下地および裏面補強材に下穴をあける。下穴径は8.5mm。(M10ボルト固定の場合)

縁切り



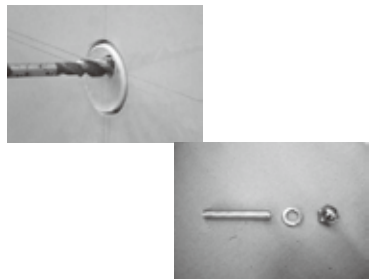
【重要】ダイヤモンドホールソー(※)で手すり取付プレートごとボルト穴周りを縁切りする。※径はP.21参照
ポイント:下地にはあけない。また、ハイドロセラ・ウォールにはがさない。

縁切り



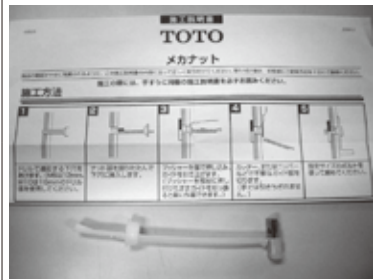
嵩上げ部分を残し、手すり取付プレートの不要部を取り除く。

タップ



【ボルト固定の場合】
下地補強材にM10×1.5のタップでねじを切る。取付ボルトがしっかり入っていくが確認する。
ポイント:手すりの取り付け方に応じた処理をしてください。

補足



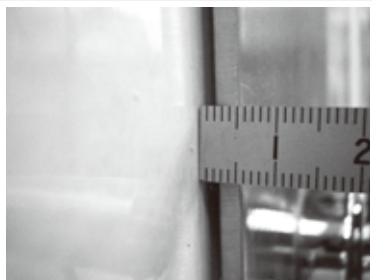
【補足】メカナットセット使用の際はハイドロセラ・ウォール・裏面補強材ともに16mmの下穴をあけてください。

手すり取り付け



手すりを取り付ける。
ポイント:ねじ締め込みの最後は手締めで行う。

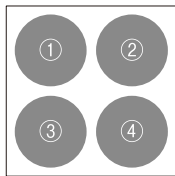
嵩上げ確認



ハイドロセラ・ウォールと手すり台座に約2mmの嵩上げができていることを確認する。

手すり取付プレートの使い方(可動式)

- 縁切り径φ40の場合、手すり取付プレート1枚でボルト4カ所使用できます。



- 必ず手すり取付金具を使用して下地補強してください。
- 縁切りは手すり台座からはみ出ないように注意してください。



設備機器の取り付け

その他の設備の取り付け方

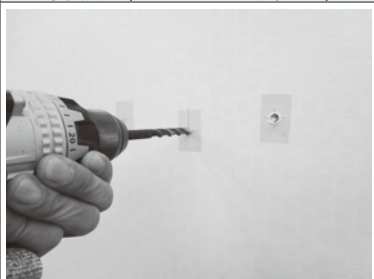
ベビーシート・ベビーチェア・フィッティングボードの取付手順

けがき



設備取り付けに必要なねじ穴位置をけがく。

下穴あけ(ハイドロセラ・ウォール)



ハイドロセラ・ウォールにねじ穴の下穴をあける。
下穴径はねじ径+4mm。
ポイント:下地にはあけない。

下穴あけ(下地)



下地、裏面補強材に下穴をあける。下穴径は3~3.5mm。(TOTODリルねじ固定の場合)

設備取り付け



設備の施工説明書に従い、設備を取り付ける。
ポイント:ねじ締め込みの最後は手締めで行う。

下地補強に鋼板を使用した場合は、ドリルねじ (TOTO別売品や現場手配) を使用してください。

フック・タオル掛け・紙巻器などアクセサリ類の取付手順

けがき



設備取り付けに必要なねじ穴位置をけがく。

下穴あけ(ハイドロセラ・ウォール)



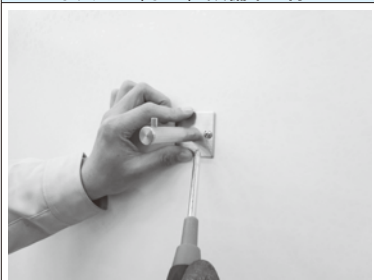
ハイドロセラ・ウォールにねじ穴の下穴をあける。
下穴径はねじ径+4mm。
ポイント:下地にはあけない。

下穴あけ(下地)



下地、裏面補強材に下穴をあける。(裏面補強材が0.8mm鋼板の場合は裏面補強材への下穴は不要)

下穴あけ(下地)・設備取り付け

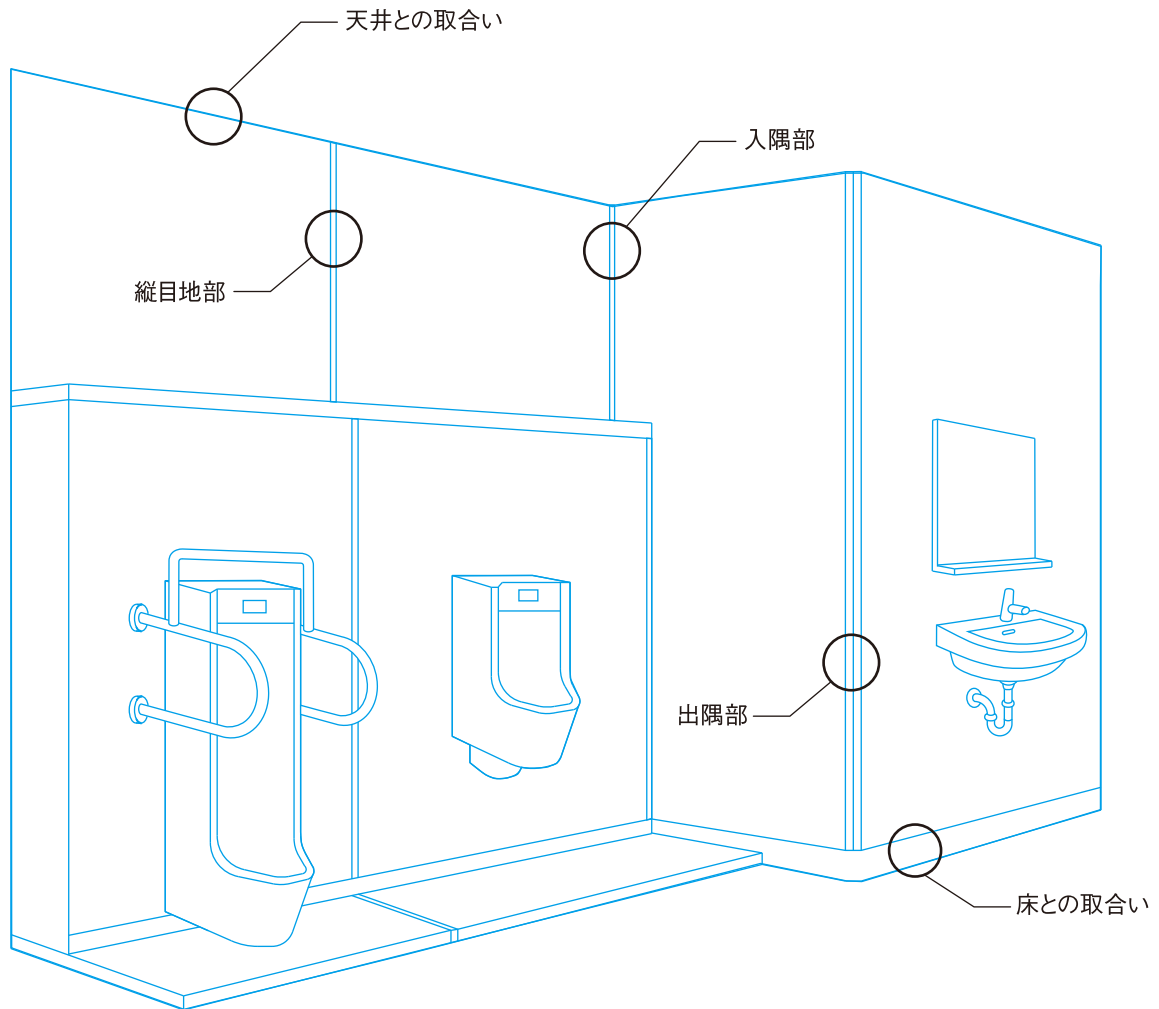


設備の施工説明書に従い、設備を取り付ける。
ポイント:ねじ締め込みの最後は手締めで行う。

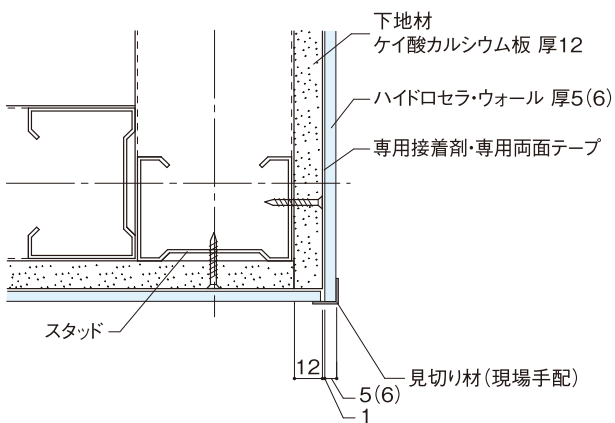
納まり例

トイレ (パブリック)

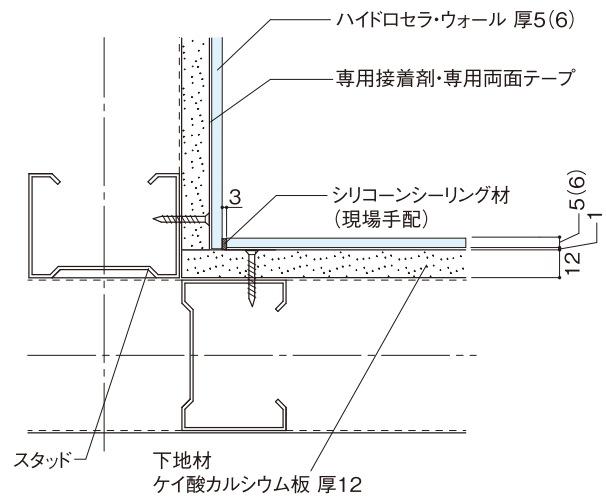
一般・トイレルーム内装



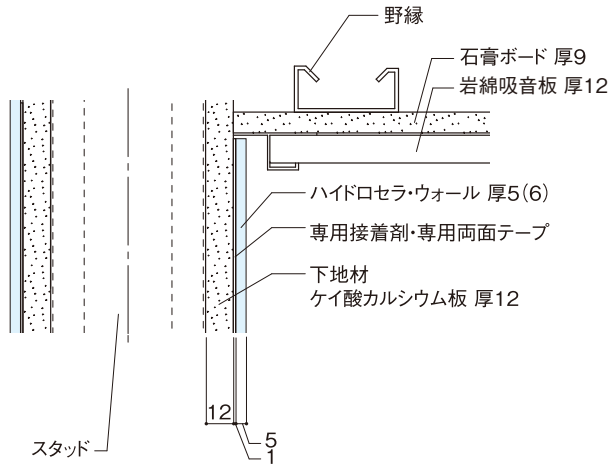
出隅部



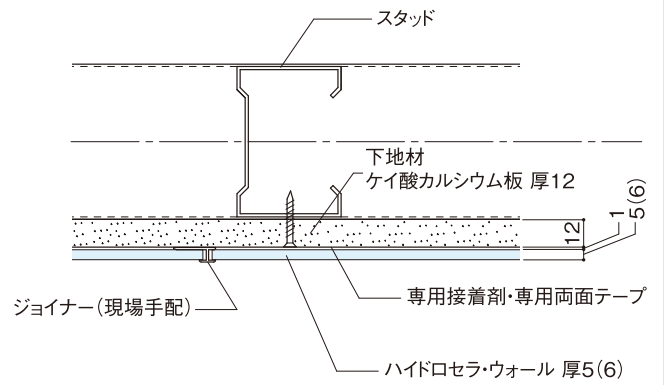
入隅部



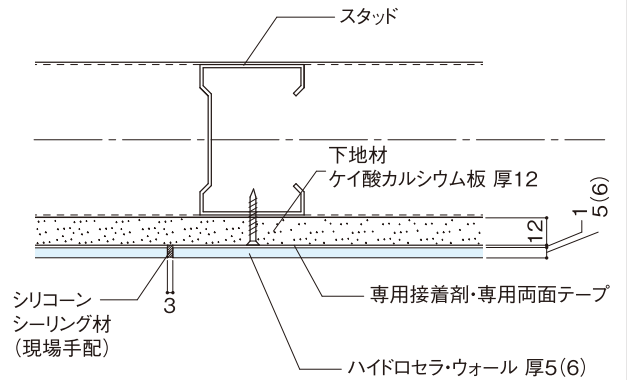
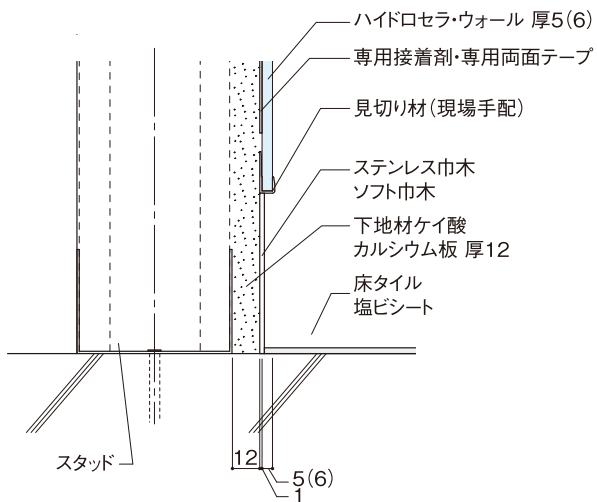
天井との取合い



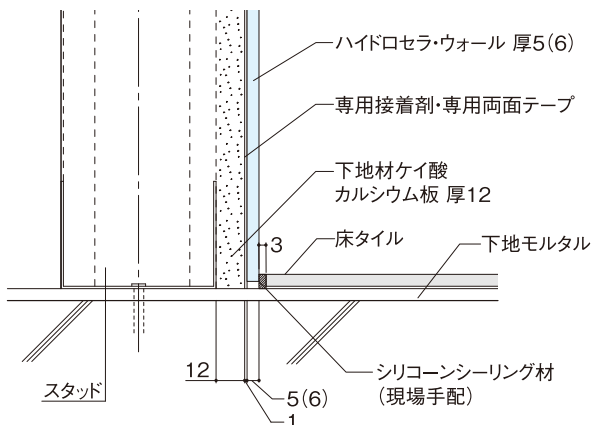
縦目地部



床との取合い



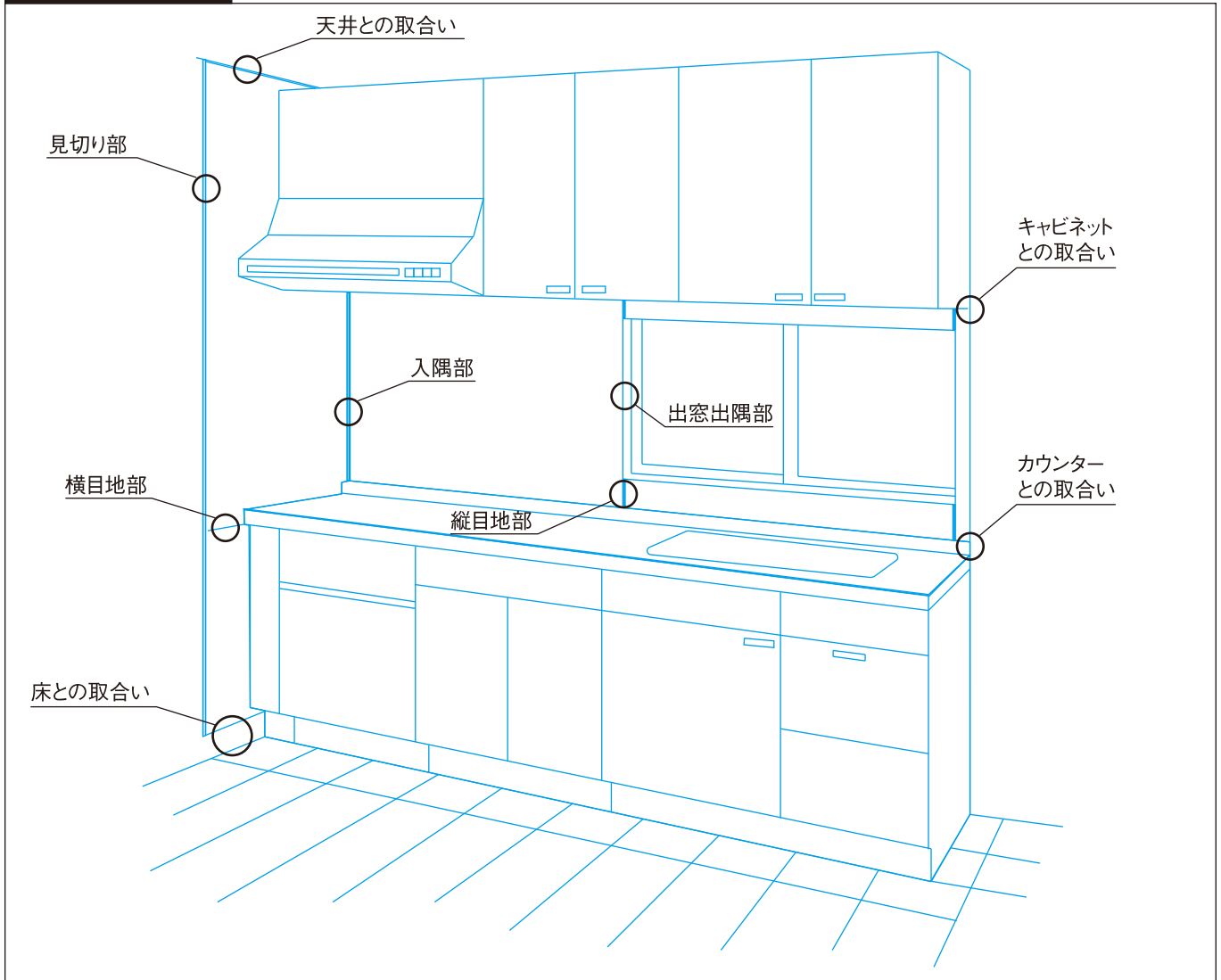
床との取合い (ハイドロセラ・ウォールを張りおろす場合)



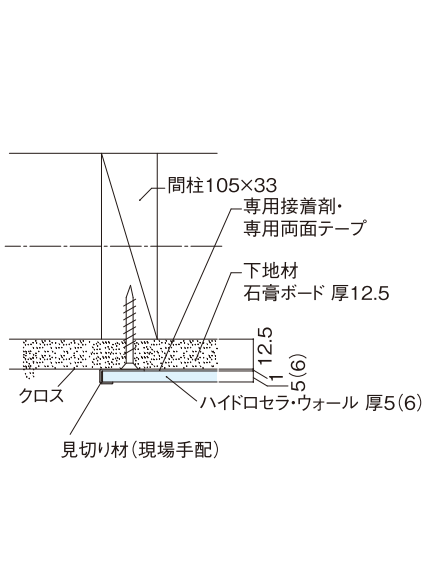
納まり例

キッチン

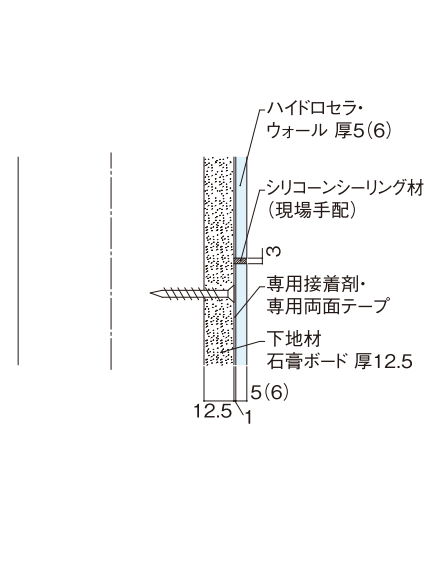
キッチン納まり図



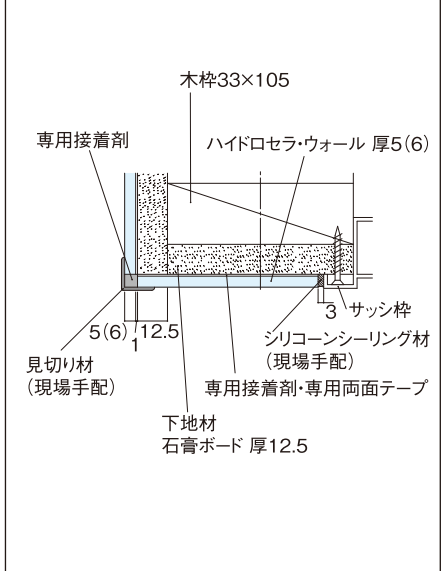
見切り部



横目地部



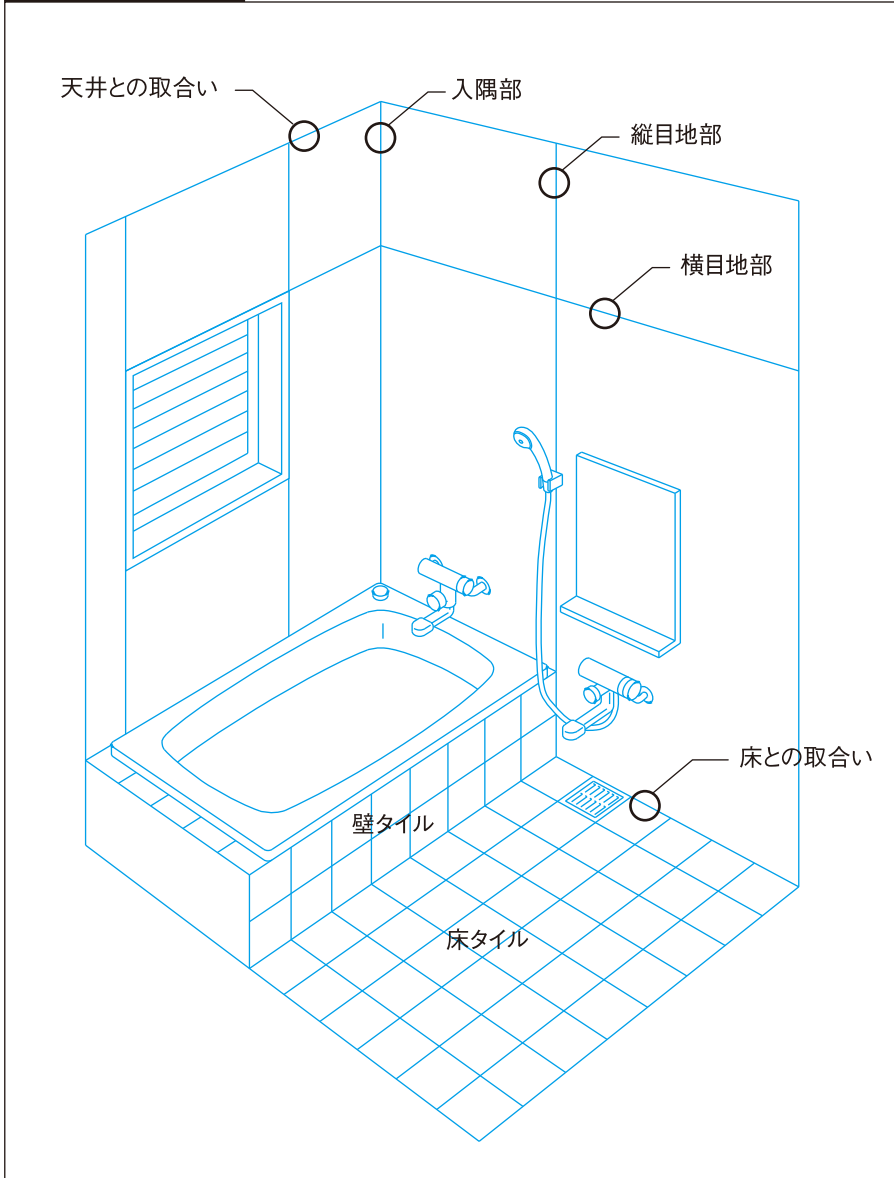
出窓出隅部



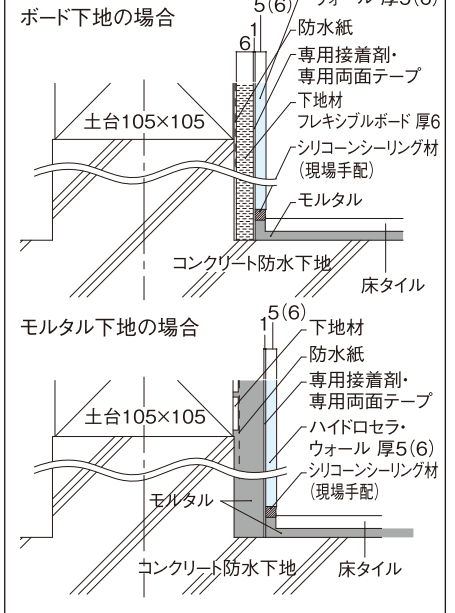
納まり例

浴室

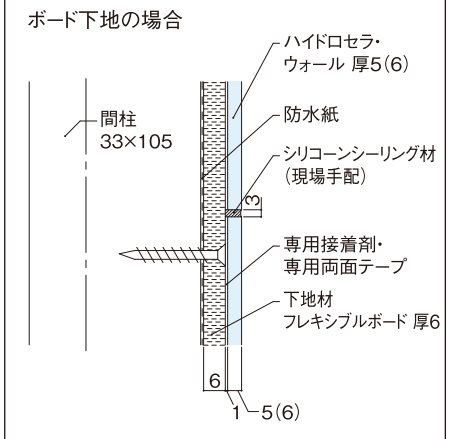
浴室の納まり図



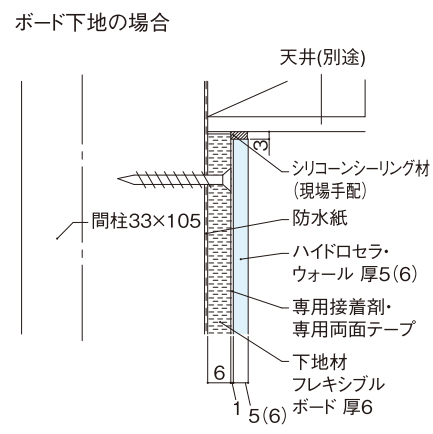
床との取合い



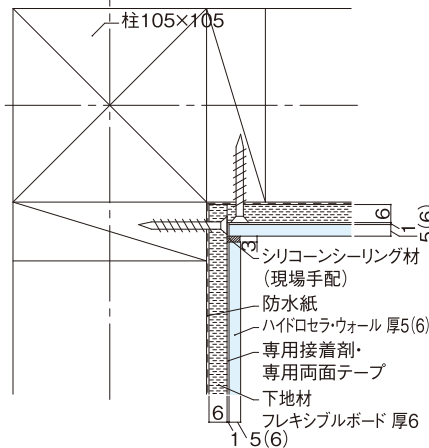
横目地部



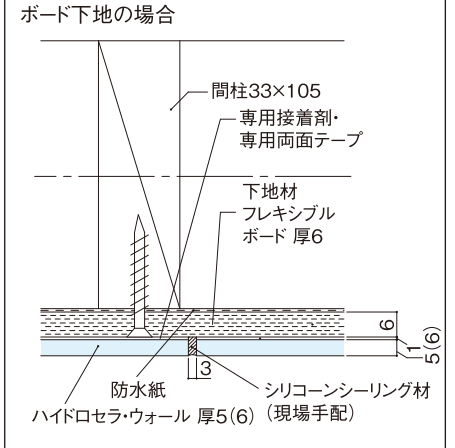
天井との取合い



入隅部



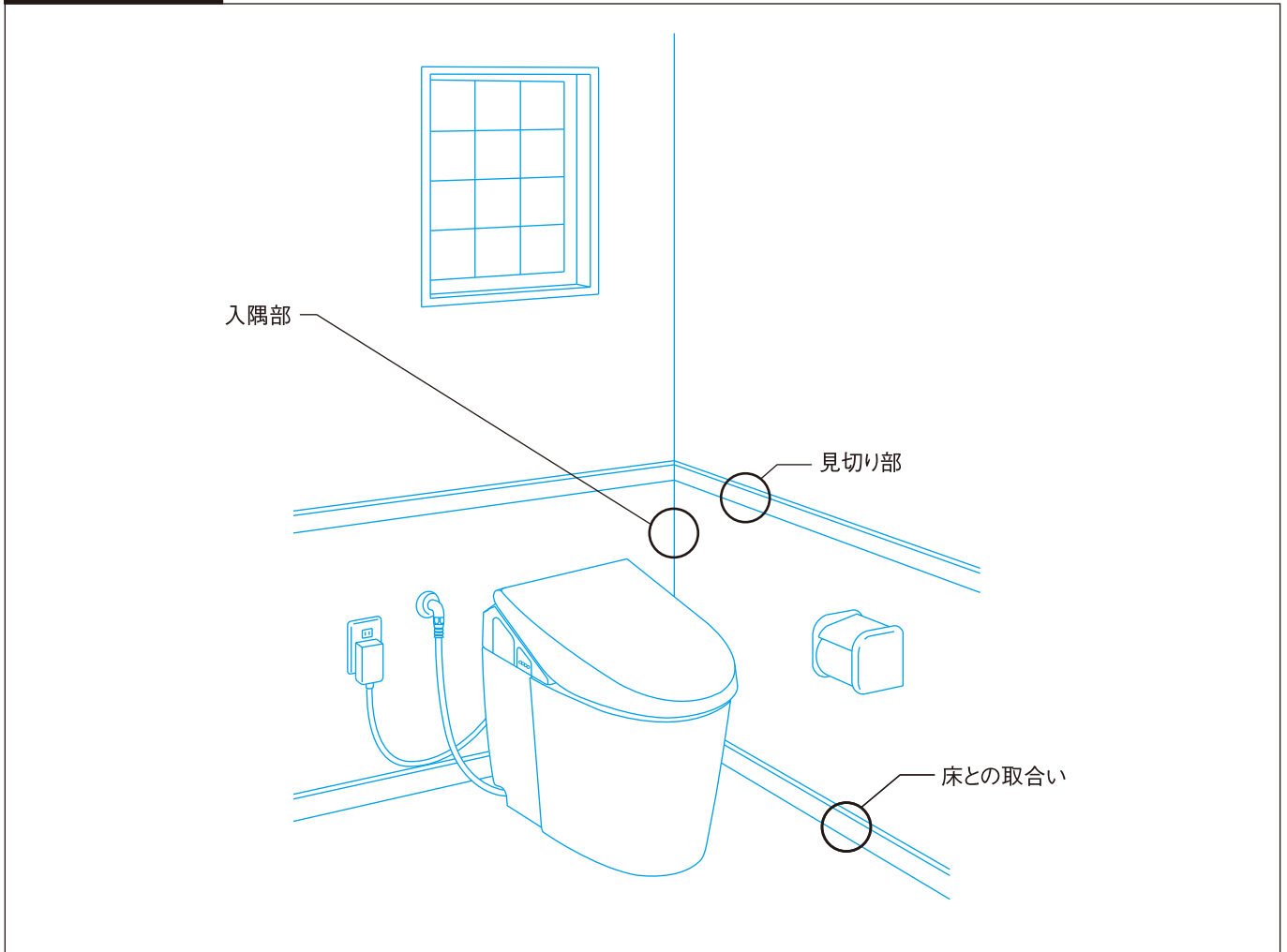
縦目地部



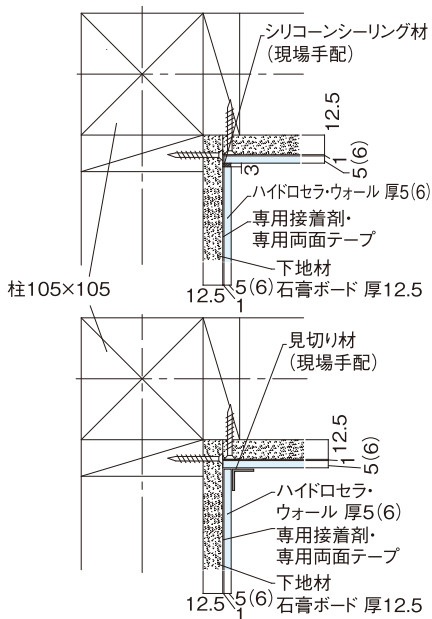
納まり例

トイレ(住宅)

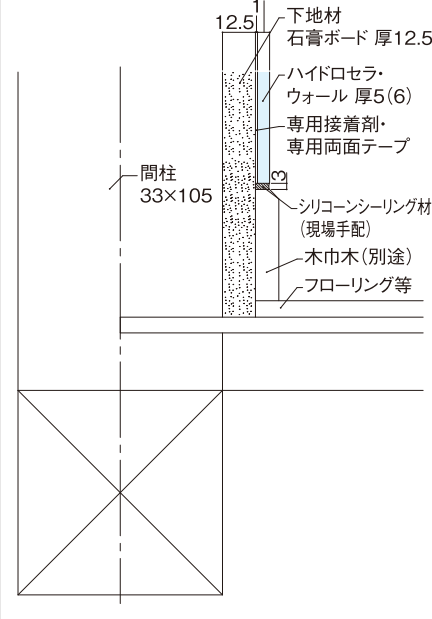
トイレの納まり図



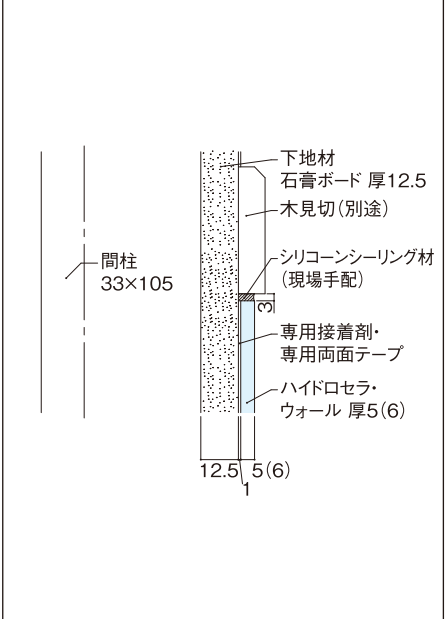
入隅部



床との取合い



見切り部



TOTO

TOTO株式会社

■建築専門家のための情報サイトCOM-ET(コメット)

仕様、施工方法、メンテナンスなどの詳しい情報やCAD(2D・3D)データを提供しております。
設計・提案の際にぜひお役立てください。

<http://www.com-et.com/> TOTOホームページ <https://jp.toto.com>



商品のお問い合わせは

TOTO(株)お客様相談室へ

TEL ☎ 0120-03-1010

FAX ☎ 0120-09-1010

受付時間：9:00～17:00（夏期休暇・年末年始を除く）



修理のご用命は

安心・信頼の
TOTOメンテナンス(株)修理受付センターへ

ホームページ <https://www.tom-net.jp>

TEL ☎ 0120-1010-05

FAX ☎ 0120-1010-02

受付：年中無休

受付時間：8:00～19:00

訪問修理：年中無休（一部地域を除く）

営業時間：9:00～18:00



安全に関するご注意

商品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危険や損害を未然に防ぐために、次のような表示をしています。
安全のために必ずお守りください。

△注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および
物的損害(家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害)のみの発生が想定される内容を示しています。

ご使用前に「取扱説明書(ご愛用のしおり)」をよく読んで正しくお使いください。また、設置工事をされる場合は「組立設置
施工説明書(工事説明書)」をよく読んで施工ください。取り扱いを誤ると、事故や故障の原因になります。

当カタログ記載事項に関するご注意

●各商品は、仕様変更、価格改定となる場合があります。●印刷物と実際の商品では、色や柄が多少異なって見える場合があります。
●各商品は条件に合った施工が必要です。施工、組立、設置については販売店、または施工業者にご用命ください。
●日本国内専用用品です。

※当社ならびに当社グループ会社は、個人情報の保護を社会的責務と考えます。お客様からお預かりした個人情報は、関連法令お
よび社内諸規定に基づき慎重かつ適切に取り扱います。詳細はTOTOホームページ(<https://jp.toto.com>)をご覧ください。